ライオン誌5月号2009年（平成21年）4月20日発行
昭和33年12月19日付第3種郵便物認可
毎月1回20日発行第51巻第11号
LIONS
INTERNATIONAL
THE
Lion
IN JAPAN
Official publication
of Lions Clubs
International
第51巻
第11号
May 5 2009
THEME 明日を開く若い力
全国から50歳未満の会員が集った若手会員フォーラムでは、
明日のライオンズの姿を描き出そうと
熱のこもったディスカッションを行った

ワークショップ

クラブのリテンション(退会防止)を考える

会員維持·退会防止には、各クラブで全会員参加のワークショップが有効であると考え、そのための教材（講師用ガイドブック・参加者用資料）を作成しました。

ワークショップでは参加者全員が意見を出しやすくするため、1テーブル5、6人のグループを作り、まずグループごとに、ブレーンストーミングによって退会の原因を洗い出し、クラブの問題点を把握します。次にその問題点を解決する方策を話し合います。そして目標を設定し、いつ、だれが、どうやって行動を起こすのかといった行動計画を作成します。

グループワークを行うことで意識の共有化が図られ、仲間意識が高まります。自由に意見を話すことでクラブの楽しさを感じることになりますし、行動計画を作成することで実現性が高まります。

ぜひこの教材を活用して頂きたいと思います。教材は各地区キャビネット事務局にお送りしてあります。

グローバル会員増強チーム(GMT)リーダー

協力／ライオン誌日本語版委員会

※教材に関するお問い合わせは、各地区キャビネットかライオン誌日本語版事務所へお願いします

写真に映し出されるライオンズ像

最近、妻のモーリーンと共にブルキナファソの、ある孤児院を訪問しました。ここにはエイズで親を亡くしたり、置き去りにされた子どもたちが居ます。彼らには頼るべき身寄りがありません。この孤児院とライオンズがなかったら、充実した人生を築くチャンスにも恵まれなかったことでしょう。無力な幼子を見れば、彼らに手を差し伸べる私たちの奉仕の意味、それがどれほど必要とされているかがよく分かると思います。かわいがられて大事に育てられている子どもたちをこの目で見て、私たちは強く心を打たれました。

1枚の写真は千の言葉にも勝ると言います。『ライオン』誌に載っているライオンズの事業を写した写真からも、恵まれない人々の暮らしを改善するために献身的に努力するライオンズの活力が伝わってきます。そして自分の恵まれた境遇に感謝する気持ちや、ライオンズが行う奉仕への尊敬の念が強まり、地域社会に対する新たな献身の意が湧いてきます。

先頃、ジミー・カーター元アメリカ大統領がライオンズクラブ国際本部を訪れました。地区ガバナー、クラブ会長、テール・ツイスターを務めたこともある彼は、ライオンズは「社会の底辺にいる最も貧しい、誰からも忘れ去られた人々」への奉仕に尽くしているのだと称賛しました。私たちは奉仕で奇跡を起こします。視力を回復させ、また守り、洪水や地震発生後に不可欠な援助を提供し、ライオンズクエストを通じて青少年にライフスキルを教え、そして障害者が自信を持ち就職につながるスキルを身につけられるようにする奉仕によって。政府が必要とされているサービスを提供出来ない場合は多く、他のNGOもライオンズほどは地域社会に根差していないために、現地のニーズを見極め対応することが出来ません。だからこそライオンズがその溝を埋め、手が届かなかったところに援助や癒やしをもたらすのです。

『ライオン』誌や国際協会の公式ウェブサイトでこうした活動の写真を見て、ライオンズのすばらしい奉仕に対する理解を深めてください。私たちは所属クラブの活動にばかり目を向けがちです。それも大事なことですが、皆さんは国際協会の一員です。総勢130万人のライオンが力を合わせて世界一強力な組織を成しているのです。キャンプ・ビクトリーからカルカッタ、カリフォルニアからカメルーンに至るまで、ライオンズの会員は情熱を込めて奉仕を行い、世界に変化をもたらしています。奉仕への意欲を燃やし続けています。私たちがすばらしい奉仕を成し遂げられるのは、自分たちの行いに対する強い信念があるからです。

皆様の奉仕に心から感謝致します。これからも奇跡を起こし続けてください。

Al Brandel

2008-09年度国際会長
アルバート・F・ブランデル

THE LION MAGAZINE IN JAPAN
May 2009, Vol.51 No.11

We Serve CONTENTS

2009年5月号　表紙
埼玉県越谷市
久伊豆神社
■詳細はウェブマガジンで
https://www.thelion-mag.jp

THEME 明日を開く若い力

Ⅰ　ライオンズ若手会員フォーラム
「新しいライオンズ像を描く」

Ⅱ　ルポ：若獅子たちの肖像
武田右近：「感動」は舞台にもライオンズにも通じるもの
大田朋子：またーつ、ライオンズとの出会いが開いた新たな扉
安見一美：子どもと一緒にライオンズ。それはごく普通のこと
徳永明彦：あーくん的元気なライオンズライフ

新しいライオンズ像を描く

ライオンズ若手会員フォーラム

「これからのライオンズクラブについて大いに議論して頂きます。参加条件50歳未満」。本誌1月号の「ライオンズ若手会員フォーラム」参加者募集の呼び掛けに、意欲あふれる若手会員50人が応募。3月6日、7日開催のフォーラムは1日目にグループ・ディスカッション、2日目はパネル・ディスカッションと全体ディスカッションを行った。熱気に満ちた2日間をリポート。

■フォーラム第1日

参加者が六つに分かれ、各グループに一人、進行役・調整役としてファシリテーターが加わり、グループ・ディスカッションを行った。テーマは二つ。セッション1は「新たなアクティビティの可能性」、セッション2では「豊かなライオンズ・ライフ」について討議した。経歴や肩書きを超えて率直な意見交換を促すため、討議終了まで名刺交換禁止、相互にニックネームで呼び合うことがルール。

セッション1：新たなアクティビティの可能性

日本にライオンズクラブが誕生してから55年余り、実に多種多彩なアクテ

ィビティが展開されてきた。ではこれから先、求められるアクティビティは何か、またライオンズが力を発揮出来るのはどのような活動なのかを話し合うのがこのセッションの目的。グループ・ディスカッションはまず、各自のアクティビティに対する認識を確認するための現状把握からスタートした。

ライオンズのアクティビティの特性の一つに、その多様性がある。実際、グループ発表で「多くのNPOは一つの目的のために組織されて活動している。ライオンズの活動の多様性は時代に要求されている」との指摘がされた。ライオンズは「奉仕の百貨店」とも評され、奉仕の分野や対象は多岐にわたるし、クラブは個々の活動方針を持つ。この多様性ゆえに、異なるクラブから集まった会員がアクティビティを論ずる難しさも表出した。同じアクティビティでも、その必要性に対する考え方は異なり、賛否両論がある。所属するクラブでは当然のように高く評価されている事業が、他クラブでは必ずしもそうではない。他クラブの情報に触れる機会の少ない若い会員にとっては、新鮮な発見となったようだ。

現状把握によって挙がった問題点を大別すると、以下のようになる。

●継続事業という名のマンネリ化

前例踏襲。継続すること自体に意義を見いだしている。傍観者的な会員が増える

●時代の変化に対応していない

目的や趣旨が正しくても手法が時代に合わなくなっている。地域のニーズを情報として得られているか？

●費用対効果への疑問

アクティビティに多額の費用を必要とする。チャリティー・イベントなどで収益に対し経費を掛け過ぎ

●金銭を出すだけで寄付団体化している

周囲に「お金を出してくれる団体」と見なされている。主体性が低い

その他にも、「LCIFやYEは本当に必要なのか?」「『してやっている』という自己満足になっていないか」「地域性に対応していない」などの意見も出た。

これらの問題点を踏まえて、

●既存のアクティビティを見直し、継続すべきかどうか見極める

●事業内容がニーズに合っているのであれば、方法を変えてみる

●変化を推進するためには、年長の会員の理解と寛容が不可欠

という提言がなされた。

ここから更に踏み込んで、アクティビティの新しいアイデアが出されることを期待したが、ほとんどのグループは現状の問題提起に議論が集中し、具体的なアクティビティまでは話が進まなかった。

新たなアクティビティとして提案されたのは以下のような内容である。

●単一クラブのアクティビティの他に、ゾーンやリジョンなどで合同アクティビティに取り組む

●他の団体と連携したり、地域の人たちが一緒に活動出来るようにする

●インターネットに代表される新しいツールを生かしたアクティビティ

●地球環境にかかわるアクティビティ

●青少年に対する支援。特に心の問題に関与するライオンズクエストなど

「新たなアクティビティの可能性」というテーマにもかかわらず、具体的な提案があまり出てこなかったのは、それだけ現状のアクティビティに対する

問題意識が強いということが言えるかもしれない。

現在のアクティビティは地域の人に喜ばれているのか？　時代のニーズに合っているか？　各クラブでディスカッションし、問い直してみることが必要だろう。グループ発表では「年長者の意見が強く、若い会員の意見が通りにくい傾向がある。先輩から、失敗してもいいからチャレンジしよう、と言ってもらえたら、若手は失敗を重ねながら大きく成長していけるはず」というコメントもあった。

セッション2：豊かなライオンズ・ライフ

このセッションでは、ライオンズクラブの魅力や将来像などを多角的にとらえることを目指し、一見つかみどころのないような漠然としたテーマを設定した。各グループは「豊かなライオンズ・ライフ」に関するイメージや意見を各自が述べて、その中から二つのディスカッション・テーマを設定。これに「20年後のライオンズ像」という共通テーマを加え、三つのディスカッション・テーマについて討論した。

以下、ディスカッション・テーマごとにその内容をまとめる。

■豊かなライオンズ・ライフとは？

「豊かなライオンズ・ライフ」とは何か、どんな状態かについて考えた。

- ●豊かな心、経験、知識を求め、自分を高める機会を得られる
- ●アクティビティを通じて人から感謝される
- ●国際的視野に立った組織の一員になれた喜び。国際的なつながりを感じられる
- ●受け身ではなく能動的にかかわる。いかに喜べるか、いかに楽しめるか

■出会いと交流

ライオンズの魅力の一つは職業や世代の違いを超えた出会い。クラブ内だけでなく、クラブ間、会員間の交流を

発展させたいという提言が多い。

●地区、リジョン、ゾーンで世代間交流を図る

●地区を超えた横断的な会員の交流会を開催する

●役職の有無に関係なく、他クラブとの交流に参加したい

●アクティビティを通じたクラブ単位の交流を促進する

■人間形成・自己啓発

若手会員の多くはライオンズクラブを人間形成、自己啓発の場ととらえている。その中で積極的に活動するためには、組織や仕組みを学ぶことが必要だということも感じている。その一方で、これまで若手会員への対応や育成が不十分であることも浮き彫りになり、以下の問題提起がなされた。

●仕事とライオンズが両立出来るよう、若手に配慮したクラブ運営が必要

●クラブの中で自由闊達にライオンズクラブについて意見交換がしたい

●変化を求める気持ちを否定しない

●若手の疑問に対して受け手となるべテランも勉強してほしい

●若い会員を引き付け、自己研鑽の場としてアピールするために、ビジネスをツールとしてもよいのでは

■20年後のライオンズ像

あるグループは、試しに暗い未来像を考えてみた。「高齢化。メンバーが会長経験者ばかり。クラブ間交流がなくなる。労力アクティビティが出来なくなる……」などが挙がった。現状のまま推移すれば、20年後を待たずに現実になると危機感を抱くクラブもあるだろう。20年後、「豊かなライオンズ・ライフ」を送るような組織であるためには、上記のテーマ「出会いと交流」「人間形成・自己啓発」で提言されたように、交流や教育を充実させていくことが必要になる。

■フォーラム第2日

フォーラム2日目は前半にパネル・ディスカッション、後半に全体ディスカッションを行った。パネル・ディスカッションでは、フォーラム参加者でもある志賀重信332-C地区ガバナー、若手会員増強を進めるGMTリーダーの後藤忍元地区ガバナーと高田順一元協議会議長、ファシリテーターからは国際協会上位ライオンズ・リーダーシップ研究会講師経験者のライオン団英男の4人がパネリストを務め、同じくファシリテーターのライオン大野元裕（国際協会講師育成研究会講師経験者）をコーディネーターに、討論が展開された。

また、ディスカッション中は次の四つのルールを設けた。①呼称はさん付け②積極的に前向きな発言を③20~30年後に答えが出ることを目標に、無理に結論づけなくても良い④質疑応答では最初に所属と氏名を言う。

ライオン志賀重信

ライオン後藤忍

ライオン高田順一

ライオン団英男

ライオン大野元裕

パネル・ディスカッション：

――昨日はセッション1で、お金が掛かりすぎたりマンネリ化している継続アクティビティは、中止を含めた再評価が必要だという意見が出ました。時代に合ったアクティビティが求められています。

高田　アクティビティには常に「Plan Do Check Action（計画、実施、評価、改善）」が必要です。これを怠らなければ継続事業をより良いものにしていくことが出来ます。

団　お金だけでなく知力・労力の提供へ、また、奉仕の百貨店から専門店の要素を強めていくような、時代に合わせてやり方を変えていくべきでしょう。

後藤　昔と違って近年はさまざまな奉仕組織がありますよね。その中でライオンズが認められるためには地域に密着したアクティビティと、国際的事業も含め、社会をリードする活動が必要だと思います。

志賀　当地区でも継続事業への固執は見えます。世代間のギャップを埋めて新しい事業や手法を軌道に乗せるには時間を要するかもしれませんが、若手が具体策を挙げて推進していかれることを望みます。

――セッション2でテーマになった「豊かなライオンズ・ライフ」、皆さんにとっては何ですか。

高田　私にとっては価値を見いだせることです。この仲間で良かった、と。活動を通じて「ありがとう」という言葉をどれだけもらえるか。それが価値を計る尺度になります。

後藤　ライオンズの財産は「人」。会員同士が親子、兄弟のように付き合える。ライオン・バッジ一つで、日本中、世界中の人とそうした交流が出来る。それが豊かさだと思います。

――今回、若手同士の交流の場を求める声も多く出ました。

志賀　私もそれはぜひとも必要だと実感しました。ゾーン、リジョン、地区の各レベルで、若手の交流を図り、次につなげていく環境作りをしていきたい。参加者の皆さんも各地域に戻って、その意気を周囲に広げてください。

――会員から地区に進言する場合、どのようにしたら良いですか。

後藤　まず友達と相談することでしょうね。手順としては、それを例会で発言して、クラブからの提案としてゾーン、リジョンを通ってガバナーに伝えられる。正式な提案があれば、GMTリーダーとして後押しすることも出来ます。若手が突き上げを行った際、ベテランがそれを受け入れる地区は成功していきますよ。

高田　ガバナー公式訪問の質問状に挙げたり、懇親会の時に話をするという方法もありますね。

団　現況の手順はそうなのですが、私は、会員が直接ガバナーに意見が言える体勢になるべきだと感じています。並行して草の根交流として、インターネットなどのITツールを利用して情報の共有、活用も進めていければいいですね。

全体ディスカッション：

GMTリーダーから参加者への「若手会員招集のための成功例・アイデアを聞かせてほしい」という要望に対して、次のような発言があった。

「私のクラブは昨年8月に27人で結成された平均年齢38歳のクラブ。半年で20人増強し、エクステンションも考え

ている。事業主でなく被雇用者が中心。（気持ちの上で）普段着のまま、お金を掛けず、自分たちが出来る奉仕を、という趣旨に人が集まった」（川手寅平／山梨アカデミーライオンズクラブ）

「会員の2代目や後継者を教育・育成するためのジュニア支部結成を計画中。他クラブのルーキーを一定期間預かったり、後には支部が独立してクラブになっても良いと考えている」（齊藤晃／千葉県・茂原中央ライオンズクラブ）

　参加者からの質問。

「仕事に役立つ組織、勉強会に参加する若い経営者が多い。ライオンズでもゲスト・スピーカーや先輩から大変経営に役立つ話を聞くことが出来る。これを前面に出し、勉強会などをサテライトのような形で展開して、会員招請につなげることは出来ないか」（桂太郎／東京世田谷ライオンズクラブ）

　これに対しパネリストは、「ライオンズはビジネス・サークルが元であり、そうした資質はある。リーダーシップの育成はライオンズとしても重要。ウィ・サーブの精神から逸脱しなければよいと思う」など、斬新でユニークな提案を歓迎した。

　まだ話し足りない、という中でのタイム・アップ。2日間にわたるフォーラムの全行程が終了した。各参加者には、未完の印象を次へつなげるのりしろに、若手の交流によって増幅されたパワーを動力にして、挑戦を続けてもらいたい。

参加者コメント：

●20年後のライオンズは今の若手の行動にかかっていると言えるでしょう。クラブで若手の委員会を組織し、今出来ること（会員拡大など）、やらなければいけないこと（アクティビティ見直しなど）を協議してゆく必要性を感じました。（山根俊哉／北海道・千歳ライオンズクラブ）

●多くの疑問や不安は他の参加者と共通の思いと知り、安堵感と同時に今後への希望が生まれました。若手がクラブを牽引する原動力となり、時代に則しかつ望まれるクラブに変えていきたいです。（加藤勝久／埼玉県・三郷鳩鳥ライオンズクラブ）

●「井の中の蛙」とはこのことで、何気なくしていたアクティビティに疑問を持てるようになりました。ムクムクとやる気が沸きましたので、例会などで話す機会を持ち、より良い活動につなげたいです。（佐藤靖記／宮城県・利府ライオンズクラブ）

●全国の若手メンバーが腹の底から意見をぶつけ合う「場」に参加出来たことは有意義でした。心一つにぶつかり合った場の熱気は、体感したものでないと分からないと思います。（丸山隆／新潟県・長岡ライオンズクラブ）

●第一印象で参加しやすい

と感じ、説明と進行も分かりやすく勉強になりました。次年度は当地区で「ミニ合同フォーラム」を開催したいと、次期役員候補者たちと話しています。（島田政典／千葉県・銚子ライオンズクラブ）

●初対面の者同士があれだけの意見交換をすることはそう体験出来るものではなく、貴重な経験でした。改めてライオンズの魅力とすばらしさに感動しました。（手塚美志子／栃木県・宇都宮マロニエ ライオンズクラブ）

●どのクラブも抱える問題は共通しています。その中でも今まで想像もしなかった活動事例を聞くことが出来、それを基に将来のアクティビティに対する考えや思いを膨らませることが出来ました。（加藤万寿夫／岐阜県・土岐織部ライオンズクラブ）

●自ら進んで参加したメンバーなので、活発な議論がされることは当然ですが、こういう活発な議論が、クラブあるいは地区で出来ていないことが残念です。どう意識改革するのか、今後の課題です。（松本晃一／兵庫県・神戸湊川ライオンズクラブ）

●パネル・デスカッションでは前日のグループ討議の内容に対し、経験豊富なパネリストから的確な意見が出され、参考になりました。全体会議では斬新な意見が聞け、前向きなエネルギーをもらいました。（田口眞治／大阪府・泉大津ライオンズクラブ）

●この経験を踏まえ自身のクラブでまず世代間の意識の違いを確認し、話し合う機会を持ちたいと思います。諸先輩の貴重な意見を尊重しつつ、若手の意見と融合させ、時代に合ったクラブ運営に生かしていきたいです。（磯嵜秀喜／和歌山県・南部ライオンズクラブ）

●20年後を考えた時、今のままでは5年も持たないのではないかと危機感を覚えました。会員増強に成果が上がらないのには理由があると思うし、それが参加者の話や成功事例を聞いた中で見えた気がします。（倉持寛／奈良県・生駒ライオンズクラブ）

●役職にこだわらず自由な討議をするために、討議前の名刺交換は禁止。後で現役地区ガバナーが混じっていたことを知り驚きました。初めて出会ったライオンたちが、別れる時は一つの熱いクラブ（塊）になった気分で嬉しく思いました。小さな希望の光を発見した2日間でした。（徳永修一郎・福岡大名ライオンズクラブ）

■参加者

桂　太郎（330-A／東京世田谷）
山本康弘（330-A／東京世田谷）
向山大司（330-B／神奈川県・川崎白百合）
須藤　清（330-B／神奈川県・横浜本郷）
高畠祐二（330-B／神奈川県・横浜寿）
内海香織（330-B／神奈川県・横浜みなと馬車道）
川手寅平（330-B／山梨アカデミー）
森田慶次郎（330-C／埼玉県・岩槻）
加藤勝久（330-C／埼玉県・三郷鳰鳥）
山根俊哉（331-A／北海道・千歳）
志賀重信（332-C／宮城県・塩釜）
佐藤靖記（332-C／宮城県・利府）
加藤宏樹（332-D／福島県・矢吹）
丸山　隆（333-A／新潟県・長岡）
手塚美志子（333-B／栃木県・宇都宮マロニエ）
橋爪雅子（333-C／千葉ゆうきの）
島田政典（333-C／千葉県・銚子）
髙橋克文（333-C／千葉県・船橋翼）
星野真弓（333-C／千葉県・松戸中央）
清田修正（333-C／千葉県・松戸中央）
高安京子（333-C／千葉県・松戸中央）
齊藤　晃（333-C／千葉県・茂原中央）
福田正明（333-C／千葉県・酒々井）
兼平俊昭（333-E／茨城県・潮来）
幡谷仙秀（333-E／茨城県・水戸）
磯﨑達也（333-E／茨城県・水戸）
武藤大志郎（333-E／茨城県・水戸）
古梶剛士（333-E／茨城県・土浦亀城）
小野木巧（334-B／岐阜県・各務原クローバー）
加藤万寿夫（334-B／岐阜県・土岐織部）
辻村昌弘（334-C／静岡県・浜松南）
前田芳秀（334-C／静岡巽）
花方　淳（334-D／富山昭和）
増澤義治（334-E／長野県・諏訪湖）
林田吉博（335-A／兵庫県・芦屋東）
行光威夫（335-A／兵庫県・芦屋東）
松本晃一（335-A／兵庫県・神戸湊川）
松村　勉（335-A／兵庫県・神戸サン）
田口眞治（335-B／大阪府・泉大津）
磯嵜秀喜（335-B／和歌山県・南部）
倉持　寛（335-C／奈良県・生駒）
首藤　弾（336-A／愛媛県・西条石鎚）
徳永修一郎（337-A／福岡大名）
佐竹信介（337-A／福岡県・田川）
今田恵子（337-D／熊本龍峰）
翁長　健（337-D／沖縄）

■ファシリテーター

荘　英隆（330-A／東京恵比寿）
小柴登司（330-B／神奈川県・横浜みなとマリン）
大野元裕（330-C／埼玉県・川口）
清水直喜（334-D／福井県・敦賀みなと）
辰巳博昭（335-A／兵庫県・神戸一の谷）
団　英男（335-A／兵庫県・神戸レインボー）

「感動」は舞台にもライオンズにも通じるもの

■武田右近（市川右近）
1963年大阪府生まれ。歌舞伎俳優（屋号・澤瀉屋）。日本舞踊飛鳥流家元の長男に生まれ、75年に市川猿之助の部屋子となり市川右近を名乗る。86年スーパー歌舞伎第1作「ヤマトタケル」から演出助手を務め、現在は師匠の片腕的存在。97年東京葵ライオンズクラブ入会、08年度クラブ会長。

3月の新橋演舞場公演「獨道中五十三驛（ひとりたびごじゅうさんつぎ）」で一人15役を演じ、鮮やかな早替わりや宙乗りなど見所たっぷりの舞台を見せた。師匠の市川猿之助が長く上演が途絶えていた古典作品を復活させ、現代に通じるエンターテインメント性の高い作品に仕上げた演目だ。江戸時代の歌舞伎は流行性が強く、歌と踊りと芝居が三位一体となった庶民の娯楽だった。それを現代に復活させたのが猿之助歌舞伎であり、スーパー歌舞伎だ。

「師匠が努力して作り上げたものを、次の世代に受け継いでいくことが私の夢です。私自身まだまだ未完成ですが、今から伝えていかないと間に合わない。そもそも役者というのはこれで完成というのがない。未完成のまま懸命に生涯を送るのです」

初めて歌舞伎の舞台を踏んだ8歳の時、猿之助が狐忠信を演じた「義経千本桜」の一幕に、ディズニー映画のようなファンタジックな世界を見た。そのかっこよさに、サッカー選手に憧れるように憧れた。11歳で猿之助一門に入門し、小学校卒業と同時に上京。親元を離れて寂しい一方で、大好きな師匠の書斎に寝泊まりしながら学校に通い、稽古することに大きな喜びを感じた。

20代半ばになって、自分には基礎となる古典が足りないと気づいた。

「師匠は若い頃（青年期）古典をしっかりと学び、その上で新たな試みに挑戦されていました。私は見よう見まねで草書や行書を書いていたようなもので、気づいたら楷書が書けなかった。歌舞伎における創作とは、古典を一度バラバラにしてそのパーツを使って組み上げていくこと。ですから伝統を知らないと新しいものは作れないんです。古典というのは古典を踏まえた上での革新の連続ということなのです。今は古典と呼ばれているものも初演の時は新作だったんですから」

常日頃、師匠に厳しく言われたのが「役者は人間性を磨かなくてはならない」ということ。役には演じる者の人間性が現れる、技術だけでは表現出来ないと教えられた。

縁あってライオンズクラブに入会したのは12年前。歌舞伎一筋の生活の中、ライオンズで多くの出会いがあり視野が広がった。多忙な公演スケジュールの合間、例会に出られる時には必ず出席するようにしている。奉仕という志で結ばれたクラブには、面倒見のいい先輩たちがいて、さまざまな業種で活躍する仲間の話を聞くことが出来る。それが楽しいからだ。今期はクラブ会長という大役を、周囲の協力に支えられながら務めている。

「クラブでは今後、若くて多忙な会員でも会長職を務められるようにすべきだと考え、サポート態勢を整えています。それならとても忙しい人を、ということで『じゃあまずは市川右近に』となったんです」

会長として力を入れているのは会員増強。2月末までに10人以上の新会員を迎えた。アクティビティでは昨年10月に主演した「森の石松」のゲネプロに視覚障害者のグループを招待。また、330-A地区統一奉仕デーには募金箱を手に有楽町駅前に立って、協力を呼び掛けた。

「舞台では私たちが懸命に演じることでお客様が喜んでくださり、それに力を得て稽古以上のことが出来たりする。人と人が気のキャッチボールをすることで、劇場は感動の空間になります。それと共通するような経験が奉仕にもある。募金活動で言えば、信頼して浄財を託してくださる方々と直接つながる喜びや感動が、自分自身に活力を与えてくれるのだと思います」

■5月11～28日、愛知県名古屋市の中日劇場で「東海道中膝栗毛」に出演（問い合わせTEL052・263・7171）

写真／田中勝明　文／河村智子

また一つ、ライオンズとの出会いが開いた新たな扉

■大田朋子

新潟県生まれ。国際福祉医療カレッジなど講師。新潟の歴史・言語の研究、執筆に携わり著書に『おもしろえちご』『独断大田流にいがた弁講座』など。06年新潟千歳ライオンズクラブ入会。

＊著書の読者プレゼントがあります（56ページ）

仲間内で「クライン・ハウス」と呼ばれている仕事場は、新潟の豪雪地帯で取り壊しが予定されていた家を移築したもの。古民家再生を手掛けるドイツ人建築家を介して、大田さんの元でよみがえった。この冬、ここで机に向かい、卒業論文の仕上げに苦しい時を過ごした。睡眠3時間という日が何日か続き、もう諦めようかと考えたこともある。そんな時は、モーツァルトの曲を聞くと明日への意欲と力がわいたと言う。

昼は教壇に立ち、夜は日本版MBAと呼ばれる文部科学省認可の経営学修士（以下、MBA）取得を目指して学ぶ日々をこの2年間続けてきた。医療・福祉関係の専門学校で心理学、大学では郷土史や方言に関する「新潟学」の講義を行い、ライターや講演の仕事もこなす多忙な毎日。大田さんの多彩なキャリアからは、好奇心と向学心旺盛な人物像が浮かび上がる。

大学では家政学部の食物学科を専攻し、修了すると医学部物療内科学研究室で研究助手に。その後、東京から新潟に戻って就いたのは、編集兼コピーライターの仕事だった。「小学1年生の作文に、ものを教えたり、書いたりする人になりたいと書いたんです。初めて連載を担当した時、当時の担任の先生から『本当に実現させましたね』とお手紙を頂きました。勉強にはそんなに熱心ではありませんでしたが、学校が好き、本が大好きでした」

タウン誌の取材を通じてさまざまな人に出会い、話を聞くうちに、地元の習俗や歴史、方言に興味を引かれていった。新潟の郷土史を自らのテーマとし、これまでに3冊の著作をまとめている。更に、その仕事のかたわらで大学の研究室に通い、以前から興味のあった心理学の研究にも取り組んだ。現在はその両方の分野で講師を務めている。

そして2年前、新潟に社会人対象の経営学修士課程を設ける事業創造大学院大学が設立されたのを機に、MBAを取ろうと考えた。もともと経営には興味を抱いていたが、次なるチャレンジのきっかけになったのはライオンズクラブ入会だった。3年前、初の女性会員としてクラブに迎えられて、大きな刺激を受ける。

「ライオンズで経験豊富な経営者の皆さんのお話を聞くのはとても面白く、勉強になります。チャンスがあれば自分もビジネスに挑戦したいと思うようになりました。私のスポンサーになってくださったクラブ会長（当時）が大学院で学ばれていたことにも影響を受けました」

とはいえ、財務や生産管理の知識や経験は全くなく、ゼロからのスタート。基礎科目を始めすべての講義を受けなくてはならない。週5日ほぼ毎日、午後6時半から9時40分まで講義を受ける苦難の日々が始まった。やむを得ず例会やアクティビティを欠席することが増えたが、周囲のメンバーの理解と温かい励ましに助けられた。

今興味を持っているのはコミュニティー・ビジネス。「あまり知られていませんが、新潟には多くの伝承があり、方言もさまざま。そんな地域の財産を生かしながら、お年寄りに生きがいを感じてもらえる事業が出来ないかと考えています」

もう一つのプランが、心身にハンディキャップを持つ子どもたちの支援事業だ。子どもたちに絵画を教える活動に参加している大田さんは、古民家をギャラリーにして子どもたちの作品を発表する場にしたい、ゆくゆくは彼らが学ぶ場を作りたいと考えている。

MBA取得の目標を果たし、今度は思い描いたプランの実現へ。内に秘めた強い意志で、どんな困難も乗り越えていくはずだ。

写真と文／河村智子

MINK
BUNKA
INAKA
NIIGATA
長樂無極

子どもと一緒にライオンズ。それはごく普通のこと

■安見一美

1968年生まれ。ガールスカウト千葉県支部第8分団リーダー。1996年千葉中央レオ入会。2000年千葉花見川ライオンズチャーターメンバー。05年度クラブ会計。06年度クラブ幹事。

10人程の少女たちを率いて、安見一美はJR稲毛駅の改札を出てきた。皆、揃いの水色のユニフォームを着ている。日曜日、午後1時。午前中はガールスカウトの活動だったのだ。迎えにきているお母さんたちに子どもを引き渡す。さあ次は、娘さんの夏帆ちゃん（7歳）と一緒に『ライオン』誌の取材。

安見がガールスカウトに加入したのは小学校3年生の時だ。さまざまな行事や集会、募金活動、その準備も含め、皆で活動するのが楽しかった。

「特に、キャンプが大好きになりました。スカウトでは設備が整った施設ではなくて、何もない所でキャンプを張るんです。今は環境保全や衛生の観点から幾分制限も加わりましたが、当時は自分たちでテーブルを作ったり、トイレは穴を掘って、水は汲んで使いました」

自然の中に身を置くのがいいのだと言う。その思いは現在まで冷めることなく続いている。ガールスカウトだけでなくさまざまな機会を見つけたり作ったりしてキャンプへ出掛ける。キャリアが買われて、今ではロープワークや火おこしの講師として呼ばれることもある。

高校を卒業すると、ガールスカウトでは指導者に「フライ・アップ」した。

「私が今までたくさんの人たちにお世話になってきたように、子どもたちに日常生活とは違ったさまざまな体験をさせてあげたいと思いました」

キャンプはもちろん、国内外の隊員と交流、福祉施設へのボランティア訪問、国連難民高等弁務官や中央省庁など、専門機関が子どものために設けているプログラムにも参加する。経験を糧に、子どもたちが一歩しずつ成長しているのが見て取れた。平日は仕事、休日はガールスカウトやキャンプにどっぷりというような生活になった。

ライオンズに入会したのは2000年。スカウトの支援組織だった千葉中央ライオンズがスポンサーのレオクラブを経て、同クラブがエクステンションした千葉花見川ライオンズのチャーター・メンバーとなった。間もなく結婚、そして夏帆ちゃんが生まれた。子育てをしながらガールスカウトとライオンズを続行した。一時休会などは考えなかったのだろうか。

「そういえば考えませんでしたねえ。クラブの皆さんが出やすい雰囲気を作ってくださったし。例会は子連れでも出席させてもらえるし。結局こんな風にしているのが好きなんでしょうね」

と気負いがない。

千葉花見川ライオンズはシニア世代をメーン・ターゲットに、月会費5千円で自分たちの特技を生かした奉仕をしようというクラブである。地域の人たちと一緒に味噌を漬けたり、慰問で講談を行ったり、子どもたちに竹馬やコマ、剣玉といった昔ながらの遊びを伝授したり。安見もおはじきやお手玉を教える。取材の日には夏帆ちゃんと二人で手合わせ遊びの「お寺の和尚さん」を披露してもらった。

「ライオンズはお金持ちで偉い人だけの団体という先入観を持たなければ、女性や若い人が活動するのも難しくないし、楽しいし、得るものが多いと思うんですよ。うちのクラブは70歳を超える人が多いんですが、皆さんそれぞれに刻んできた歴史があります。大陸から引き揚げてきた人や戦後の混乱期に事業を興した人や。そうした話を聞くというのをクラブでやったことがあって、とても興味深いものでした。今度は若い頃の写真も一緒に拝見しながら、もっとたくさんの人の話を詳しく聞きいてみたいと思っています」

写真／田中勝明　文／柳瀬祐子

あーくん的
元気なライオンズライフ

■徳永明彦（あーくん）

1976年広島県生まれ。㈱サンエイ社員。ゲタリンピック実行委員会ステージ資金部会長。インターネットTV「ネットアイランドby あーくん」メーン・パーソナリティー。2004年結成の福山ニューセンチュリー ライオンズチャーター・メンバー、初代幹事。33歳。

福山一有名なサラリーマンとも称される、あーくん。毎週水曜日の午後7時から8時まで、福山市の地元情報動画配信番組「ネットアイランド」のDJを務めている。ネットアイランド（http://www.tvbingo.jp/ch00/tvbingo_live/wed_backno.html）はインターネットを使った番組で、例えば3月11日には、福山松永ライオンズ主催の大茶盛をリポートするなど、地域に根付いた情報を動画によりライブ配信している。

DJを始めたのは、会社の展示会で知り合ったある講師の薦めがきっかけだった。その人は会社経営のかたわらエフエム福山のDJを務めており、「DJやってる営業マンなんて、カッコ良くないか？」と、あーくんを勧誘。これを受けたあーくん、インターネットのホームページを紹介するFM番組で、DJデビューを果たすことになった。

実はそれまで、営業活動を苦手にしていた。が、これを機に新しい自分を発見、仕事にも自信が持てるようになったという。また、DJ活動が相乗効果をもたらし、人間としての幅を大きく広げてくれることとなる。

番組はその後、ラジオからインターネットを通じた映像配信へと進化。当初はそれらを自宅でやっていたが、やがて社長が認めてくれ、今では会社がスポンサーとなり、㈱サンエイの社長室をスタジオに番組を配信している。

更にこのDJが、次なるステップにつながる。7年前のある日、あーくんは日本一の下駄の産地・福山市松永地区で、毎年開催されている町おこしのイベント「ゲタリンピック」に、司会として呼ばれた。この時、あーくんが担当したのは下駄飛ばし競技の実況中継だったが、ハイテンションな中継っぷりが面白いと、実行委員会の人たちに気に入られてしまった。

そして翌年、ラジオで情報を流すため、ゲタリンピックの実行委員会を取材に行ったところ、ミイラ取りがミイラに――いつの間にかスタッフになっていたのである。実行委員会は本来、地元松永地区の人たちで構成されるのだが、いわば「よそ者」のあーくんが受け入れられたのは、元気いっぱいの愛すべきキャラクターのおかげだったようだ。あーくんもやるからには中途半端はいやと、ゲタリンピックの運営にのめり込み、前回のゲタリンピックではステージ資金部会長を務め、イベントの成功に貢献した。

次にあーくんを待ち受けていたのは、新世紀ライオンズクラブへの招請だった。ゲタリンピックでの活躍が、ライオンズクラブ会員の目に止まったのだ。

「声を掛けて頂いた時は、ライオンズ会員は時間とお金のある経営者というイメージを持っていたので、自分とは結びつきませんでした。しかし、誘ってくださった方から、『そういうイメージを徳永君に変えてもらいたいんだ。新世紀ライオンズクラブというのは若い会員だけで構成されるので、みんなで新しいライオンズクラブのイメージを作ってほしい』と言われ、思い切って入会させて頂きました。

実際のところ、会社員がライオンズというのは、会社としてもライオンズとしても難しいです。ライオンズは平日昼間の会合が多いですよね。私は会社員ですから仕事優先です。それでもライオンズとして活動していられるのは、会社の理解があるからです。若い人を招請するなら、ライオンズも少し変わる必要があるのではないでしょうか」

今年度、あーくんは2年目理事と財務計画委員長を務めている。その最大の仕事が、4月11～12日に福山で開催する「ニューセンチュリーライオンズクラブ合同親睦例会」。5回目となる合同例会だが、ここでの交流がまた、あーくんに更なる活力を与えてくれ、あーくん的元気なライオンズライフの源となっている。

写真と文／鈴木秀晃

ON AIR

クラブ間交流Ⅲ ウィ・サーブ・その1

マングローブ植樹で結ばれたクラブ

沖縄県・八重山＝北海道・札幌スノー＝愛知県・岡崎南＝静岡巽＝長野県・臼田＝大阪生野＝熊本県・玉名

マングローブは命のゆりかご

国の天然記念物に指定されている石垣島、宮良川河口のマングローブは、国内最大の面積を持つと言われる。すぐ近くを流れる磯辺川河口にも、以前はマングローブが広がっていた。子どもの頃、この川を遊び場にしていた八重山ライオンズクラブの豊見山修司会長は「広い林の端から端まで枝を伝って移動出来た」と話す。それ程密生していた木々がほとんどは護岸工事で伐採され、今は細い木々がまばらに残るだけだ。

「マングローブ」は特定の樹木ではなく、熱帯から亜熱帯の河口汽水域に生育する森林を指す。石垣島のマングローブを構成するのはオヒルギ、メヒルギ、ヤエヤマヒルギなど6種類の植物。張り出した気根が多様な生物の住みかとなり、豊かな生態系を作り上げる。しかし開発が進むにつれ、道路造成や農薬などの影響で石垣島のマングローブは減少し、海岸線は荒れた。

八重山ライオンズクラブは1990年に名蔵湾でヒルギ植樹アクティビティを開始した。マングローブの種を拾い集め、河口付近の砂地に差しておくと芽を出す。活着率は低く、うまく根付いてもフジツボが付着して枯死する被害に見舞われたが、南国のおおらかなライオンたちは気長に地道に種を植え、手入れを続けてきた。

この活動に、長年交流を続ける愛知

県・岡崎南ライオンズクラブ、05年に提携を結んだ熊本県・玉名ライオンズクラブ、台湾の基隆仁愛ライオンズクラブの姉妹クラブが賛同。石垣島訪問の際は共に植樹を行うのが恒例となった。

苗木を育てる

そんな活動が転機を迎えたのは、南国の海に憧れを抱く雪国のライオンとの出会いがきっかけだった。北海道・札幌スノーライオンズクラブのライオン月居吉彦は八重山の風土と人に魅せられ、たびたび石垣島を訪れるうち、この活動を知った。環境保護に大きな関心を寄せ国内外で植樹に取り組んできた札幌スノーライオンズクラブは、ライオン月居の提案を受けて石垣島でのヒルギ植樹を申し出た。八重山ライオンズクラブにとっても非常にうれしい話ではあるが、一つ困ったことがあった。オヒルギは10～1月、ヤエヤマヒルギは6月頃に種を落とす。いつもはそれを拾って植えるのだが、札幌からの訪問予定は3月で、

その時期は肝心の種がない。そこで、クラブでは自分たちの手で苗木を育て、それを植樹してもらうことにした。

06年3月、石垣の子どもたちに喜んでもらおうと雪だるまを携えて、札幌から会員と家族23人が来島。この日のために用意された1300本の苗木を地元ボーイスカウトと協力して植えた。実際、苗木を植える方が種に比べて格段に活着率がよい。これ以後、八重山ライオンズクラブでは苗木の育成に取り組むことになる。

全国に広がる輪

こうして友情とアクティビティで結ばれたクラブの輪はその後も広がり、この活動を知った静岡巽ライオンズクラブ、長野県・臼田ライオンズクラブ、大阪生野ライオンズクラブも島を訪れて植樹を行っている。共に汗を流した後は、南の島ならではの気さくで温かい宴のひと時が楽しい。

八重山ライオンズクラブの会員たちが手塩にかけて育てる苗木は年に千本にも上り、各クラブから苗木育成の支援金も贈られている。

2007年、結成45周年を迎えた八重山ライオンズクラブは、名蔵湾の植林地を望む海辺に東屋を建設した。ヒルギは成長が遅く、20年前に植えた木は今やっと3メートル程に達した。東屋の中に掲げた「東屋建設に寄せて」の一文は、協力した各クラブとのヒルギ植栽に触れ、「ここを訪れる人たちが限りある自然の大切さを認識する機会になれば幸いである」と結ばれている。

（取材／河村智子）

昨年12月の大相撲八重山巡業の際、豊見山会長の次男で序二段の豊見山や豪栄道ら力士6人と植樹。札幌のライオン月居も参加した

クラブ間交流Ⅲ ウィ・サーブ・その2

サイレント・スノボー&スキー・リーダース・キャンプ

兵庫県・明石魚住＝山形県・天童舞鶴＝北海道・小樽グリーン

きっかけは、ある会員の素朴な疑問から

2月13～15日、山形市の蔵王温泉スキー場で、近畿ろうあ連盟と明石魚住ライオンズクラブ（橋本維久夫会長／13人）のサイレント・スノボー&スキー・リーダース・キャンプが開催された。今年で11回目となるキャンプには、近畿のろう者とその家族、手話通訳士ら15人と、明石魚住ライオンズクラブや、地元の天童舞鶴ライオンズクラブ（妻沼尚子会長／48人）などのライオンズ関係者約20人が参加、昼はスキーやスノーボードを、夜は交流を楽しんだ。

第1回のキャンプは1999年、ある会員が発した「聴覚障害者はスキーやスノボーをどうやって覚えるんだろう」という素朴な疑問から始まった。聴覚障害者の公認スキー指導員が、初めて誕生したのがその数年程前。その後、聴覚障害者の指導員は少しずつ増えてきたが、現在でも全国で40人程度しかいない。また、手話が出来る公認スキー指導員も多くはない。

そこで同クラブでは「指導員にスキーが出来る手話通訳者をつけてレッスンすれば、正しい技術が覚えられ、スキーやスノボーの楽しさや面白さを味わってもらえるのでは」と考えた。そのため当初は、昼間はゲレンデで技術指導、夜は宿舎でルールマナー講習会を開いていた。キャンプ後半には、手話通訳士が腱鞘炎になるほどだった。

回を重ね、交流の輪が広がる

が、回を重ねるうち、会員たちはあることに気付いた。近畿ろうあ連盟は近畿2府4県の聴覚障害者団体によって構成され、キャンプにも各地から参加している。が、どうも同じ地域同士、顔見知り同士で固まり、他府県や初めての参加者とは、あまり交流していないようだ。もしや苦手なのだろうか。

参加者たちに聞いてみると、やはりそうだった。そこで今度は、「交流の場を提供しよう」と考えた。最初は長野へ、そして次は新潟へ。長野では地元のろう者が参加してくれ、新潟では

新潟県中越地震のボランティアで知り合った長岡ライオンズクラブの会員が駆け付けてくれた。

「うれしかったですね。そこで参加者に、こう紹介しました。『ライオンズクラブの仲間です。日本中に仲間がいる。君たちにもいるはずや。これからどんどん交流していこう』と」（橋本会長）

そして昨年、第10回のキャンプは参加者たちの要望で北海道へ。小樽グリーンライオンズクラブが、小樽聾学校の招待スキーを実施していることを『ライオン』誌で知り、思い切って声を掛けてみた。すると快く受け入れてくれ、両クラブ合同の交流事業として実現。更には千葉県から、橋本会長とIT関係の活動を通じて以前から交友のあった会員が、全日本スキー連盟公認基礎スキー正指導員のライオン岩崎隆（市川ライオンズクラブ）を伴い参加してくれた。

ライオン岩崎は初級コースを担当。その中に、4回目の参加ながら、まだ思うように滑れずにいた中学1年生の笹倉祐子さんがいた。が、ライオン岩崎の的確な指導により、メキメキと上達。同時に、やや内向的に見えていた祐子さんが、明るい女の子に変貌した。キャンプ終盤には、ライオンズのおじさんたちとも、打ち解けて話すようになった。

「自信を持つと、人間は変わるんだなあと実感しました」（ライオン岩崎）

この体験はライオン岩崎の心を強くとらえ、今年もまた、キャンプには祐子さんと滑る岩崎指導員の姿があった。

だからライオンズは、やめられない

一方、受け入れ側の天童舞鶴ライオンズクラブでは年度当初から、天童市の手話サークル「もみじ」の協力を得て、手話例会を開催。会員たちが簡単な手話を学ぶと共に、手話サークルの会員たちと交流を深めてきた。

小樽グリーンライオンズクラブからも西本吉幸会長らが、小樽ろうあ協会の会員と手話通訳士を伴い参加してくれた。

更には東京、新潟、千葉、福井からも、さまざまなライオンズ活動を通じて知り合った仲間たちが、蔵王に集結。近畿地方と天童、小樽のろう者、そして1都1道5県のライオンたち、聴覚障害者同士、ライオン同士、聴覚障害者とライオン、ライオンと手話通訳士など、蔵王と天童を舞台に大きな大きな交流の輪が出来た。

11年前、入会したてのある会員が漏らした一言が、今、その時には想像すらしなかった交流事業へと発展した。これだから、ライオンズはやめられない。

（取材／鈴木秀晃）

■国際理事
後藤隆一
(千葉県・柏中央)

ニューヨークで春期国際理事会開催

　今回、春期国際理事会は、ブランデル国際会長の地元ニューヨークにて開催されました。理事会の各種会議はすべてマンハッタンの中心部に位置するホテル内で行われましたが、会議以外の各催事には、会長の思い入れに加えて、特にモーリーン夫人とお二人での十二分な配慮を感じる、大変有意義な十日ほどを過ごすこととなりました。

　今年の国連ライオンズ・デーは3月13日に開催されました。理事会期間にこの日を含めることにより、最初で最後のこととなるかもしれませんが、理事会構成員とその配偶者全員が国連デーに参加したわけです。国連事務総長は極めて多忙で、国連本部で執務出来る日数にも限度があるようですが、今回はパン・ギムン事務総長ご自身も出席され、世界中から参集した我らライオンズの仲間に語り掛けてくださいました。

　また、国連内レストランにて開かれた昼食会では、各国の国連大使がそれぞれにテーブルに着く慣例となっております。日本から国連に派遣されている3人の大使の一人である角茂樹大使が、日本人理事夫婦6人と同じテーブルにて、食事を共にしながら大使としての広範な知識を元に熱弁を振るっていらっしゃいました。

　過去の国連ライオンズ・デーに参加されたことのある日本人メンバーが何人いらっしゃるのかは承知しておりませんが、今回は私たち国際理事以外の日本人参加者はお見受けしませんでした。実は日本の理事3人にとりましても、国連本部に足を踏み入れること自体が初体験であったわけで、広い内部で迷子になりかけながらも、楽しく印象深い一日を過ごすことが出来ました。

　さて、理事会そのものの話題に戻ります。理事会では、周知の通り委員会ごとの審議に最も多くの時間を割きます。期間の中途で、丸一日掛けて厳しく全体審議が成されるとはいえ、基本的にすべての報告と決議事項の提出は委員会から発せられ、決を採ることに至ります。

　このことは当然に、国際会長といえども、委員会の意向に反して自分の思うままには物事が決められないことを意味します。ですから、委員会の審議内容によっては、レセプション中や会食中に頻繁に会長から委員長へ依頼やら相談が投げ掛けられることになり、時には会長居室でじっくり話そう、となります。会長だけであればまだしも、会長と副会長の意見が割れると、いささか厄介なこととなります。

　今回は、私の所属委員会の扱い案件に関して執行役員間の考え方に微妙な温度差があり、各執行役員が何度か我々の委員会室を訪れ、質問をすると同時に自説を展開されました。また、委員会に配属されている理事会アポインティーは、会長から直接任命されその信を受けているという立場からも、出番到来ということになり、その発言の妙に感心させられる場面もありました。

　会長、副会長からはたいへん貴重な意見が多く寄せられましたが、おかげさまで時間が足りなくなったために委員会が夜にずれ込み、レセプション等をパスして会議を続行した結果、おのおのが携帯電話で配偶者に一人で行ってくれの連絡をしていました。奥様方(一人はご主人様)には恨まれたかもしれません。皆さん失礼を致しました。

ライオンズ ニュースカセット

NEWS CASSETTE

←331-C地区内クラブが収集した約1万個の眼鏡は、１箱約10キロの段ボール59箱に梱包して発送された。地元紙には作業の模様が写真入りで大きく報じられた

5月は「視力のリサイクル月間」

視力が落ちたら眼鏡かコンタクトレンズで矯正するのは当然のことだが、発展途上国にはそれが出来ない人たちがいる。ライオンズは80年前から眼鏡リサイクルを実施し、１９９４年には協会の公式アクティビティに採用。５月を「視力のリサイクル月間」として活動を推奨している。現在、世界13カ所にあるライオンズ眼鏡リサイクル・センターでは集まった眼鏡を洗浄、分類し、発展途上国で眼鏡を必要とする人々に提供する。日本でも眼鏡収集に取り組むクラブはあるが、国内にはリサイクル・センターがないため、多くは海外のセンターに送付されている。

今年度、331・C地区（道南／小玉誠ガバナー）は国際本部担当課から情報を得て準備を進め、地区内59クラブに中古眼鏡収集を呼び掛けた。各クラブはポスターを作成したり、地元紙や広報誌でPRして市民に協力を求めるなど収集活動を展開。キャビネットには昨年12月1日からの2カ月間で９８５９個の眼鏡が集まり、これをアメリカ・インディアナ州にあるセンターへ送った。また335・D地区（兵庫西／緒方義則ガバナー）では、バンコク国際大会でスリランカの会員から中古眼鏡の必要性を聞いた緒方ガバナーの提案で、地区LCIF委員会が地区内クラブに眼鏡収集を呼び掛けた。昨年末までに約２千個を集め、今年1月にスリランカへ届けている。

7月のミネアポリス国際大会では会場に眼鏡リサイクル・ボックスが設置される。不要になった眼鏡やサングラスなど、参加者は手荷物で持てる範囲で収集に協力されたい。

第97回国際大会開催地はカナダ・トロントに決定

3月9〜14日、アメリカ・ニューヨークで開かれた国際理事会で、2014年の第97回国際大会開催地がカナダ・オンタリオ州の州都トロントに決定した。先住民の言葉で「トランテン（人の集まる場所）」に由来するトロントはカナダ最大の都市。多くの移民を受け入れてきたことから、多様な民族が生活する国際色豊かな街だ。同市での開催は1931年、42年、64年に続き4回目となる。

第48回OSEALフォーラム・ステアリング委員会の報告

2月15日、第48回東洋・東南アジア・フォーラムの第1回ステアリング委員会会議が開催地のタイ・パタヤで開かれた。日本からはステアリング委員として後藤隆一、栢森新治、杉本忠夫各国際理事と阿部幸一、八嶌隆、小田邦雄各議長が出席。会議ではフォーラム・テーマや登録、プログラムなどが協議された。主な事項は以下の通り。

日程：2009年11月19日（木）〜22日（日）
本部ホテル／開会式・閉会式会場：ロイヤルクリフビーチ・リゾート
フォーラム・テーマ：REFLECTION（語意＝熟考）
登録料：100ドルまたは1万円
主要日程：
11月20日13時半〜16時　開会式・国際文化ショー
21日13時半〜16時　セミナー
22日10時〜11時半　閉会式
公式ウェブサイト：www.oseal2009.com

タム国際第2副会長候補者を囲み現・元国際理事が懇談

3月24日、東京・日比谷の日比谷松本楼で、日本の現・元国際理事懇談会が開催された。この日は3人の現職理事と7人の元国際理事ら13人が出席、国際第2副会長候補者のウィン・クン・タム元国際理事（香港）とその支援委員長ポール・ファン元国際理事（同）、今秋タイ・パタヤで開催されるOSEALフォーラムの組織委員会委員長ソムサクディ・ロヴィス元国際理事を交え懇談した。この中でタム元理事は「役職は重要ではありません。私たちは皆、ライオンズだということこそが重要なのです。私はライオンズのために精いっぱい働きます。共に力を合わせ、活動していきましょう」と述べると共に、国際第2副会長立候補に当たっての支援を訴え、またロヴィス元理事はパタヤ・フォーラムに対する日本の協力を要請した。

ニューヨーク理事会で承認されたLCIF交付金

ニューヨーク国際理事会でLCIF交付金46件総額100万7900ドルが承認された。うち日本への交付金は一般援助交付金11件23万8633ドル。
▼330・A地区＝ラオスに小学校建設2万ドル▼332・A地区＝血液輸送用緊急車両の購入2万ドル▼332・C地区＝ミャンマーに小学校建設1万4150ドル▼333・E地区＝タイにストリート・チルドレンのケアセンター建設3万2500ドル▼334・B地区＝ラオスに小学校建設2万5843ドル▼334・B地区＝多治見市保健センターに眼科機器購入5万5056ドル▼335・B地区＝ミャンマーに小学校建設1万5318ドル▼337・A地区＝福岡県アイバンクにマイクロケラトロン購入1万6854ドル▼337・A地区＝自閉症児施設の備品1万3182ドル▼337・C地区＝ミャンマーの中学校改修1万ドル▼337・D地区＝血液輸送車の購入1万5730ドル

LCIFを通じて東マレーシアから支援の要請

LCIFから本誌へ以下の情報が寄せられた。関心のあるクラブは問い合わせを。

◇

東マレーシアのライオンズからLCIFに支援要

ドイツ

ドイツ国際平和村とライオンズ

アルメニアから来た7歳のガルサーは、サッカーボールを蹴る自画像を描いた。今は脚に重傷を負って松葉杖をついている。彼は、爆弾や地雷、事故などによって傷を負い、ドイツ・オーバーハウゼンにある平和村で治療やリハビリを受ける子ども200人の一人。彼らの母国は基本的な医療物資さえ不足し、ただの骨折から感染症により切断に至ることさえある。

ドイツと日本のライオンズはLCIFを通じて平和村を支援している。年間約千人の子どもたちが、国内300の病院で初期治療を受けた後、平和村にやって来る。彼らはここで治療を受け、場合によっては義足などの人工装具を与えられて訓練を受ける。病院での治療はすべて無料、平和村ではボランティアの医師や支援者が彼らの面倒をみる。人工装具を付けて母国に戻った子どもたちには、成長に合わせて新しい装具が提供される。

彼らはアンゴラやアフガニスタン、タジキスタン、ウズベキスタン、グルジアなど異なる国々から集まるため、到着後すぐにドイツ語を教えられる。ほとんどの場合は2週間以内で、遠く離れた国で生まれた子同士がおしゃべりしたり、遊んだりするようになる。中には近くの村の学校に通う子もいて、その他は平和村で読み書きのレッスンを受ける。木工や裁縫、編み物などの技術も教えられる。

ドイツのライオンズは2002年、50周年記念事業として平和村の住居棟新設を支援。02、04、05年の3回にわたってLCIF交付金を受け、施設の改修も行っている。日本のライオンズは10年前、リハビリ用プールの改修を支援した。昨年10月にはエーバハルト・ヴィルフス国際第1副会長とドイツのライオンズが平和村を訪れ、支援金1万9,000ドルを贈った。

（文／メリッタ・カットライト）

オーストラリア・ダーウィン

ビールは水より軽い？

「ダーウィン・ライオンズクラブ・ビール缶レガッタ」は、カジュアリーナ、リッチフィールド、ナイトクリフ、パルマーストンの四つのライオンズクラブが合同で組織するボートレース。毎年約30チームが参加し、ダーウィンのミンディルビーチで手作り空き缶ボートの性能を競う。

このレースは1975年、ダーウィン一帯に大きな被害をもたらしたサイクロンの翌年に始まった。被災地の再建に当たった作業員たちが散らかしたビールの空き缶を見て、地元住民がこのボート・レースの開催を思いついた。

それから34年、レースは数千人の観客を迎える大イベントとなり、砂の城作りやビーチサンダルけりなど家族で楽しめる催しも行われる。クラブにとっては最大の資金調達の機会でもある。

「レガッタは完全にダーウィンの年中行事の一つになっています。過去3年間に得た資金で、我々は地元消防団に消防車を、ロイヤル・ダーウィン病院に緩和ケア・ユニットを配備しました」とライオンデス・ゲラートは話している。

請（①～④）が寄せられております。周年事業などで海外での事業を希望されるクラブがありましたら、ＬＣＩＦ資金開発課／田辺（lcif@hotmail.com）にお問い合わせください。

①コタキナバル、クチン周辺部落の上水道設置（5千ドル程度のクラブ予算で可能）

②中古ベッド30台（角度調整が可能なもの／予算は右と同程度）

③眼科用移動検診車（現時点では金額の情報なし）

④サラワク州クチンでライオンズが運営する高齢者用病院の拡張に協力（現金の寄贈を受けて完成後、協力クラブとしてクラブ名が銘版に刻まれることになると思われる。総予算30万ドルでＬＣＩＦ交付金を利用する計画）

会議録

第5回日本ライオンズ連絡事務所管理委員会（2月24日／日本ライオンズ連絡事務所／出席者：秋庭一富、杉山正夫、高田一男、林孝、竹本實生、加計邦夫、北島建則各委員）

①第4回会議要録の確認②日本ライオンズ連絡事務所上半期会計報告③会計監査立ち会いの確認④330複合地区会計調査報告⑤継続協議事項⑥報告事項⑦その他

第3回複合地区会則委員長連絡会議（3月3日／日本ライオンズ連絡事務所／出席者：長島進、小野善男、高橋幸喜、加藤弘明、小林登、濱田富雄、三野原和光各委員長、稲垣清明委員長代理、後藤隆一国際理事）

①第2回会議要録の確認②09・10年役員必携改訂の検討③役員必携の注文方法と発送④複合地区会則改正案の作成⑤ライオンズ必携第49版改訂の検討

第7回ライオン誌日本語版委員会（3月5日／ライオン誌日本語版事務所／出席者：渡邊豊隆、瀧澤嘉門、坂本和彦、坂井正、小岱義正、大島康男、山根健、塩倉安伸各委員、荘英隆、小柴登司両ＩＴアドバイザー）

①２００８・09年度上半期監査報告②ライオン誌日本語版事務所の運営③3月号（11万３１００部発行）出来④4月号記事内容の確認⑤5月号以降台割（案）と主要記事予定⑥ウェブサイト関連⑦その他

第3回複合地区ＩＴ委員長連絡会議（3月10日／日本ライオンズ連絡事務所／出席者：今井三和、田中稔、松田弘美、本間秀雄、野中杏一郎、中田勝昭、西原透、麻生好彦各委員長、藤村貞夫専門委員、小田邦雄議長）

①議長連絡会議ホームページ更新状況②次年度分役員必携ＩＴ関連箇所の改訂③ｅＭＭＲ④テレビ会議の検討⑤その他

新結成／解散／合併クラブ

■新結成クラブ

埼玉県・さいたまハーモニー（高柳俊会長）▼2月22日結成▼スポンサー／浦和

兵庫県・神戸新世紀（加納智明会長）▼3月1日結成▼スポンサー／神戸サン

■解散クラブ（3月の国際理事会で承認）

神奈川県・横浜みなと21／神奈川県・大和南／北海道・豊浦／宮城県・仙台みちのく／新潟県・湯沢／千葉県・房州白浜／千葉県・茂原たちばな／兵庫県・神戸ポート／大阪北浜船場／愛媛県・双海／宮崎マリーン／熊本県・有明

■合併クラブ（合併前のクラブ名）

兵庫県・神戸六甲ポート（神戸六甲／神戸ポート）

大阪東（大阪東／大阪北浜船場）

宮崎第一（宮崎第一／宮崎マリーン）

熊本県・長洲有明（長洲／有明）

訃報

■元国際会長

ライオンクロード・M・デボース（アメリカ・カンザス州ウィチタ）

64年、第47回国際大会で国際会長に就任。

■元国際役員

ライオン若麻積倍雄（長野）

3月8日死去、80歳。91年度334・Ｅ地区ガバナー。

ライオン岡空昇（鳥取県・境港）

3月12日死去、88歳。81年度336複合地区ガバナー協議会議長、336・Ｂ地区ガバナー。

ライオン尾平聰男（東京新橋）

3月15日死去、91歳。86年度330・Ａ地区ガバナー。

ライオン中村豪（秋田）

3月17日死去、86歳。74年度302Ｅ・Ｄ地区ガバナー。

■献眼者

2月＝ライオン柴田欣次（千葉県・流山シニア）／3月＝ライオン伊藤作衛（千葉県・大栄）／ライオン牧孝治（愛知県・西尾）

330～333複合地区（東日本）担当
GMTリーダー
後藤忍

今年度から3年間にわたって継続的に会員増強に取り組む「グローバル会員増強チーム（GMT）」。複合地区、地区とのチームワークで、会員増強の目標達成をサポートするGMTリーダー2人に、それぞれ隔月で、チームの動向や担当エリアの会員増強の成功事例などを伝えてもらう。

アル・ブランデル国際会長はライオンズクラブの将来を見据えて「会員増強」を方針として掲げています。まずは今期これまでの各複合地区、地区の取り組みをご紹介します。

330複合地区は3月5日、指導力強化・会員増強セミナーを大勢の参加者を得て開催。後藤隆一国際理事、牧田健一MERLチーム委員長による講演の他、各準地区から成功例が報告され、志気を高めました（写真）。

331複合地区は各地でローラー作戦を行ったことで各クラブの気運が上昇しています。

「3年間150％会員純増キャンペーン」を進行中の332複合地区は、2月28日にキャンペーンエントリー・クラブでセミナーを開催し、進捗状況を確認しました。

333複合地区は前年度の会員増強で顕著な成果を収めましたが、今年はそのリバウンドが懸念されるため、リーダーの育成に努めています。

以下に挙げるのは、地域の実情に合わせて会員増強を果たした成功例です。

家族会員制度を推進して成功しているのは332・B地区（岩手）です。米谷春夫ガバナーは就任前から会員増強の方向を検討した結果、家族会員制度が有力な方法と決断し、地区の最重要方針としました。この制度を分かりやすく解説したQ&A方式のパンフレットを作成。上半期は地区役員と共に各クラブを訪問してその趣旨を理解してもらうことに力を入れ、2月末現在で期首から350人が入会、大幅な純増を果たしています。米谷ガバナーは「導入を検討しているクラブがまだあるので今期内に新入会520人を目指す」と意気軒昂です。

若手会員の増強に成功しているのは330・B地区の山梨県南アルプス市にある山梨アカデミーライオンズクラブです。1年前に会員数27人で結成されたこのクラブの平均年齢は38歳。月5千円の会費で運営し、メンバーの大半が会社員です。川手寅平会長がスローガンに掲げる「頭で考えず、すぐ実行」のもとで「奉仕活動に興味があり地元の活性を考えている若手の人たち」を対象に呼び掛けたところ、これまでに20人の増員に成功しました。更に多くの入会希望者がおり、今年中には周辺クラブと協力して新クラブ結成を計画している意気盛んなクラブです。

このような成功を収めるためにはリーダーの存在が必要です。全地区、全クラブは現在も会員増強に必死な思いで取り組んでいることと思われます。リーダーの皆様はリテンションも考慮しながら、今期中諦めることなく邁進してください。

より良いサイトを目指しリニューアル

新しいウェブサイト：正しく作れば、成功はやってくる

アイリーン・オコーナー

1カ月に100万件ものアクセスがある国際協会公式ウェブサイト（www.lionslubs.org）は、ライオンズ・リーダーや国際本部が、会員や世界とコミュニケーションを取る主要な方法の一つ。この魅力的な公式サイトが、このほどリニューアル。まず英語のサイトが完成し、3月30日から新しいウェブサイトとしてお目見え、追って他の言語も公開される。

「私たちのウェブサイトを大幅に改善するために、会員の意見を聞いてきました。新しいサイトはより有益で、より使いやすく、そして私たちのブランドを更に魅力的に紹介するよう設計しました。ライオンズ会員はオンラインを使って、更に多くのことをほんのわずかな時間で出来るようになります」

と、アル・ブランデル国際会長は説明する。

より使いやすく

新しいウェブサイトでは、ライオンズについてのストーリーを、分かりやすく、そしてドラマチックに紹介している。モダンな見た目と興味をそそる内容は、ライオンズ会員だけではなく、一般の人々にも受け入れやすくなっている。

更に、今回のホームページは合理的にデザインしており、ライオンズの活動に焦点を当て、各種プロジェクトを強調して紹介。私たちがどういう団体であるか、外部の人たちにも分かりやすいものになった。そして私たちが世界に及ぼす影響などについても触れている。

新ウェブサイトは、会員が資料を探したり、記事を投稿したり、最新ニュースなど必要な情報を入手する際、なるべく簡単にアクセス出来るような作りに改善されている。

今回のリニューアルで、国際協会公式サイトは更に使い勝手がよくなった。

新しいメンバー・センター

ウェブサイトにはたくさんの外部向けの記事がある一方、ライオンズ内部に向けても重要な情報の発信源となる。そこで今回、「メンバー・センター」という項目を設け、ライオンズ会員向

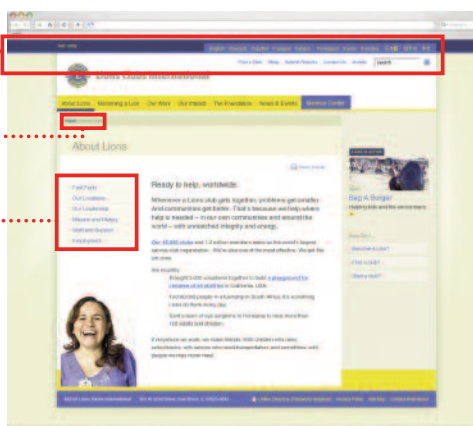
けにプロジェクトの情報、便利な資料、またクラブ情報に焦点を当てた記事を提供している。

　この「メンバー・センター」を追加したことが、新サイトの最大の変更である。「メンバー・センター」には、ライオンズが事業を実施するために必要な情報と、クラブや地区の運営のための情報が網羅されている。視力関連プロジェクトの企画、青少年プロジェクト、保健（聴力と糖尿病）、国際関係、地域や環境プロジェクトなどのアクティビティ企画に役立つ情報や、会員増強・維持、新クラブ結成、リーダーシップ育成、そして従来のサイトでおなじみの各種資料も掲載しているのだ。

「メンバー・センターでは、ライオンズがどういう団体で、どのような活動をするかという内容と、クラブや地区を運営するために必要な情報を分けて表示しています」

　と、メリッタ・カットライト国際本部PR課長は話す。

「私たちは、メンバー・センターに運営に関する記事をまとめることで、ウェブサイトを簡素化し、会員にとって必要な情報が、より探しやすくなるよう工夫しました」

「会員」を例に挙げてサイトの利用方法を説明しよう。会員プログラムについて知りたければ、「メンバー・センター」の中の「会員」及び「新クラブ」の項目にその情報を見つけることが出来る。あるいはライオンズについて関心があり、会員になりたいと思っている人は、「会員になるには」を訪れるといいだろう。

改善されたサイト内ナビゲーション

　リニューアルに当たり、多数のライオンズ会員の意見を聞いたところ、彼らが最も関心を持っていたのは、自分たちにとって必要な情報を、いかに容易に見つけられるかということであった。そこで今回のサイトでは、そうした情報を今まで以上に素早く探すために、新しい方法をいくつか採用している。その一つが、サイト内ナビゲーションの改善である。

　すべてのページのいちばん上にあるナビゲーション・バーには、「テキストのみ」、「言語の選択」、そして「クラブ検索」、「ライオンズ用品」、「報告書の提出」、「国際本部に連絡」、「LCIFに献金」といった項目がある。

　また、左側のナビゲーションによってサイト上の自分の居場所が分かるようになっていて、更にそのサイトのトピックスにもすぐにアクセス出来るように作られている。

　すべてのページの上部付近にある「パンくず」ナビゲーションは、あるページにたどり着くまでの道を示している。ヘンゼルとグレーテルのように、皆さんが私たちのホームページまでたどれるように、私たちは「パンくず」を表示した。またその道中に訪れた、どのページへも直接戻れるように設計している。

　ほとんどのページには「どうすれば？」ナビゲーションがあり、そのページの内容に関してのタスクを遂行するのに役立つページにリンクしている。例えば「ニュースとイベント」では、「どうすれば？」ナビゲーションには「ライオンズのロゴ」、「プレスリリースを書く」、「PR交付金を申請する」などの項目が表示される。

◆

「この新しいウェブサイトは、ブランド・リニューアルの一環として最も貴重な取り組みです。ライオンズがどのような団体で、なぜ重要であるかということを世界に伝える方法として、非常に明確な手段なのです」

　ブランデル国際会長は言う。

※新サイトは現在、英語版のみの公開で、各国語が完成するのは今年後半の予定となっている。

CLUB REPORT クラブ・リポート

●当欄はライオンズ、レオ、ライオネスの活動報告を扱います。投稿は住所、氏名、クラブ名を明記の上、800字程度で。関連写真があれば添付してください

岐阜県・高山岳城ライオンズクラブ

障害者施設で無料耳鼻科検診

3月3日の「耳の日」、高山岳城ライオンズクラブ（71人）は、知的障害者更生施設・高山山ゆり園で、無料の耳鼻科検診を実施した。診察に当たったのは、当クラブ・メンバーで耳鼻咽喉科医師のライオン加藤邦二。同園に隣接する知的障害児施設・山ゆり学園の子どもたちも一緒に、約90人が受診した。

この検診は、ライオン加藤がライオンズに入って間もない頃、何か自分に出来ることはないかと模索する中で始まった事業である。自分で体調管理が十分に出来なかったり、日頃なかなか病院に行かれない施設の入所者や通所者に、慣れた園内で安心して検診を受けてもらおうと考えたのだ。以来、年に1回の出張診療を続けて今年で34年目。これまでに診察した人数は延べ2千人を超えた。

当日、ライオン加藤は午前中は自分の開業する耳鼻科医院で診察を行い、午後から看護師2人を同行し高山山ゆり園へ向かった。クラブ役員や委員ら10人程がライオン加藤の医院へ出向き、必要な機材等の運搬を手伝った。今回、園で診療が行われたのは1時～4時。3時間で90人の耳や鼻、のどに異常がないかをチェックし、耳掃除まで丁寧にしたのだから、なかなかの忙しさ。多く見られる病気は中耳炎。大抵早期のうちに発見して治療することになるので大事に至らず、施設でも大変喜ばれている。ここで使われるカルテは、保険診療ではないので特別に作られ園に保管されている。

当クラブでは毎年、市内の障害者や独居老人、母子家庭の親子など約400人を招待してりんご狩りも行っている。山ゆり園、学園の入所者、児童たちとはここでも顔を合わせる。こうしたイベントや、長く続けている無料検診を通じてつちかわれた信頼感があって、スムーズに診療が出来ているのだと思う。

現在、遠方の施設からも無料検診の依頼があるのだが、時間的な問題などからお断りしている。高山山ゆり園での実施日に会場まで出向いてもらうなど、方法を検討していきたい。

（会長／南和巳）

大阪府・松原ライオンズクラブ

郷土愛を育む歴史ウォーキング

3月15日、松原ライオンズクラブ（岡田斌会長／77人）が主催する「第5回松原歴史ウォーキング」が開かれた。地域の歴史を知ることで子どもたちの郷土を愛する心を育みたいというこの企画、市教育委員会の協力で市内の史跡を巡る五つのルートを設定して年1回開き、今回で最終回を迎えた。参加者は毎回80～100人に上り、小学生から中高年まで幅広い年代が共に市内の史跡を巡る。

前日の雨模様が一転、青空が広がる絶好のウォーキング日和に恵まれ、「これまでも毎回晴れ。きっと郷土の先人たちが見守ってくれているのでしょう」と担当委員長のライオン深山契。参加者は8グループに分かれ、案内役のメンバーを先頭に、協力参加の市青少年指導員の皆さんが最後尾について進む。

この日のルートは約3キロ、6世紀後半に築かれた大塚山古墳や、古墳の上に建つ厳嶋神社、奈良時代の条里制の面影を残す三ツ池など10カ所を訪ねた。

各史跡では、松原市文化財保護審議会委員の西田孝司氏が分かりやすく、楽しい解説を聞かせてくれ、参加者たちは「松原にこんなにたくさん史跡があるとは知らなかった」「いつも通っているのに気がつかなかった」と、興味深く見学していた。

訪れた史跡の中にはこのウォーキングのために特別に公開された場所も多く、中でも深居神社では普段は入れない江戸時代初期に建造された本殿にお参りし、また氏子の方々による奉納太鼓も披露された。郷土の歴史を知るだけでなく、それを守り伝えている人々の努力を知る貴重な機会ともなった。

（取材／河村智子）

ライオンズクエスト・フォーラム in 富山

3月10日、表題のフォーラムが、富山市大手町の富山国際会議場で開催され、北陸3県のライオンズ会員や教育関係者、保護者など約130人が参加した。これは2007年からライオンズクエストに取り組んできた富山昭和ライオンズクラブ（戸田治会長／39人）が、結成25周年記念事業として企画、富山市教育委員会、同PTA連絡協議会の後援を得て実施したもの。

フォーラムは3部構成で、第Ⅰ部では北山敏和ライオンズクエスト認定講師による基調講演が行われた。北山講師はプログラムの根幹をなすライフスキルをハンカチに例え、「ちょっと何かあった時に取り出して使うもの」と話すなど、元小学校校長らしい分かりやすい説明で聴衆をひきつけた。

第Ⅱ部はモデル校である富山市立大泉中学校1年生2クラスの公開授業で、参加者は国際会議場内に設けられた仮の教室で、実際の授業風景を見学した。同校の富樫良一校長によると、富山では今年度から学校選択制が導入され、生徒が多くの小学校から集まるようになり、良い集団作りのため、1年生の1学期にライオンズクエストの授業を集中的に実施したという。

第Ⅲ部は関係者をパネリストに、プログラムの「導入」「進行」「課題」について、ディスカッションを実施。導入については当時の髙木清信校長が、「教育委員会を通して話を持ってこられたこと、3年間の支援を最初に約束してくださったことが大きかった」と振り返った。また導入時にキャビネットの担当だったライオン清水直喜（福井県・敦賀みなとライオンズクラブ）はその後、ライオンズクエスト・プログラム説明員として各地を回る中で「体験会やワークショップを通じて中身を知ってもらうと、非常にいい反応が返ってくる」と実体験を話した。これを受け、北山講師が「ライオンズクエストは子どもたちと学校のニーズに合っている。ライオンズの皆さんは自信を持って普及させてほしい」と語り掛け、会場の気持ちを一つにした。（取材／鈴木秀晃）

京都シニア ライオンズクラブ

「チャイルドライン京都」に協賛

京都シニア ライオンズクラブ（大田垣義夫会長／19人）は、今期結成5周年を迎えた。そこで節目として新規事業を行うことになり、「チャイルドライン京都」の主催団体、NPO法人・京都子どもセンターを支援することになった。

チャイルドラインは、子どもたちが誰かと話したい時、困ったり悩みがある時、または嬉しかった時、匿名で何でも話せる全国組織の電話。チャイルドライン京都は2000年12月にスタート、02年11月から常設となり、08年11月からは月曜から土曜まで、フリーダイヤルで掛けられるようになった。

出来るだけ多くの子どもたちがチャイルドラインの存在を知って、必要な時に利用してもらえるよう、昨年9月締切で「チャイルドラインを絵にしてみよう」と、子どもたちに絵画の募集を行った。

全部で175点の応募があり、一次審査で75点に絞った上で、昨年10月18～19日に梅小路公園で行われた京都文化祭08の市民ふれあいステージに出展。一般審査投票が行われた。

09年1月10日にその結果の表彰式が開催され、最優秀賞を始め各賞が授与された。これらの入選作品を元にチャイルドライン京都の新しいポスターやカードが作られ、子どもたちにチャイルドラインを知らせる一助となっている。上の写真は京都シニアライオンズクラブ賞に輝いた、京都市立伏見工業高等学校の三品美菜さんの作品を基に作られたPRカードである。

電話の内容は誰にも言わない、名前は言わなくてよい、いやならいつ切ってもよい、どんなことでも一緒に考えるというのがチャイルドラインの基本方針。当クラブも協賛団体として、子どもの置かれている状況を知り、私たち大人が何をすべきかを考えていきたいと思っている。

（第2副会長／桑垣千加子）

富山県・高岡ライオンズクラブ

ろう学校生徒をスキー教室に招待

県立高岡ろう学校の生徒（小学生・中学生・高校生）をスキー教室に招待し、冬の一日、ゲレンデで思いっきりスキーを楽しんでもらう。高岡ライオンズクラブ（国分繁昭会長／54人）のこの事業も30年目を迎えた。

2月5日、朝9時45分に開校式。12時まで実技、昼食後にクラブから目録を贈呈、午後も3時まで実技というスケジュール。当クラブにもインストラクターの資格を持つメンバーがいて、一日指導員として活躍してもらった。

会場となったイオックスアローザは、県内外から訪れた大勢の子どもたちでにぎわっていた。ろう学校の生徒たちも他の子どもたちに遅れることなく、とても伸びやかでさわやかに滑った。高校生ともなると、かなり難度の高いコースにも挑戦したくなるようで、失敗を恐れずに何度も挑んでいた。

広大な白銀のゲレンデは生徒たちの気持ちを解放するだけでなく、更なるスキー技術の習得への意欲を燃やし、スキー指導者や保護者、ライオンズのメンバーとの交流も潤滑にする、すばらしい場所だと思う。

年1回の開催ではあるが、毎年参加する子が少しでも上達していたり、昨年よりも難しいコースを選択しているのを見ると、驚くと同時に感動を覚える。目録の贈呈式でも、感謝の言葉を担当する子が、長い文章をすべて暗記して述べる、その一途な姿にいつも深い感銘を受けるのである。

富山県という土地柄、スキーは冬の人気スポーツ。ろう学校の生徒さんも積極的に参加出来るよう、今後もサポートしていきたいと思っている。

（保健委員長／林眞宰秀）

334-A地区第5リジ第1ゾー（愛知県半田市、常滑市、知多郡）

ラオスに小学校を建設

埃っぽい運動場で、子どもたちが歓声を上げて走り回っている。縄跳びをする子、バレーやサッカー、キャッチボールに興じる子、卓球をする先生方。手にする品々は第1ゾーン（石黒兼幸ゾーン・チェアパーソン）地域の市民から贈られたものだ。手作りノート、ボールペン、歯ブラシなどを受け取りうれしそうに抱いている子もいる。2月27日、ラオス人民民主共和国の北部にあるウドムサイ県サイ郡ドンサイ村、小学校舎の完成引き渡し式の光景。

ゾーン内6クラブ（阿久比、半田、美浜、南知多、武豊、常滑）の第1副会長（当時）による建設予定地視察訪問が行われたのは約1年前。ライオンズクラブがなかった最貧国ラオスでのLCIF一般援助交付金事業は、初のゾーン合同アクティビティだった。以来、4回のラオス訪問、幾多の会合を重ね、各クラブ会長による理事会・例会においての説明、承認……。6クラブが足並みをそろえてこられたことは、まさに奇跡のようだ。

今年度「勇気と情熱」をキーワードに掲げる稲垣清明ガバナーが副地区ガバナーだった時、第1副会長らとの出会いで事業は生まれた。NPO法人DEFCの沢田誠二代表なくしては成し得なかった。何より、地域の小学生、中学生、高校生、市民の皆さんが、スポーツ用品や学用品、衣料品などを集め、積極的に協力してくれた。ふと我に返ると、見開いた瞳から一筋の感動の涙がこぼれていた。

この事業を通じて、地域の人々にラオスという国について関心を持ってもらえたと思う。新聞やケーブルテレビなどの取材も受け、ライオンズのPRも出来た。そしてライオンズのメンバーであることのすばらしさと誇りを再確認出来たのは、私だけではなかっただろう。

（南知多ライオンズクラブ会長／橋本勝好）

福岡玄海ライオンズクラブ

スリランカ里親支援と青少年育成のチャリティー・コンサート

スリランカへのさまざまな支援を始めて20年。結成以来、福岡玄海ライオンズクラブ（57人）が最大限の努力を重ねて続けている事業である。食糧もなく、学校へも行けない極貧の子どもたちに、何とか光を差し伸べてあげたい。そして今回はチャリティー・コンサートを開催することになった。

当クラブにとってコンサートは初めての経験。「何が何でも成功させる！」と意気込み、会員一丸となって慎重な検討と審議を重ねた。我々ライオンズとその活動について地域にもっと理解してもらえるようにと、テレビ局とCM制作について交渉、プロダクションとの打ち合わせ、チケット販売、ポスター作成と、次々と「初めて」に挑戦していった。

コンサート当日の2月12日。主演奏者はサックス・プレーヤーのMALTAさん。共演の九州女子高等学校の生徒にも親切に指導してくださった。演奏曲に対する思いが生徒たちに伝わるうちに、不思議な一体感が生まれてきた。側で見ている我々も感動で熱くなっていったのだった。

会場の市民会館の広さと天井からぶら下がった巨大な垂れ幕に、押しつぶされそうな不安。が、受付開始を前に人がどんどん集まってきて、やがて入り口付近は大混乱。大成功だ！　皆が目で合図して喜びを分かち合い、それぞれの任務に集中した。

超満員の1780人の入場者を前に、私はクラブの歴史と今回のチャリティー・コンサートの目的をお話しした。

仲間と過ごした大変な日々は、青少年だけでなく、会員同士の絆も育ててくれた。

（会長／新木猛）

神奈川県・大井ひょうたんライオンズクラブ

ケナフを栽培し名刺等作成

私たち大井ひょうたんライオンズクラブ（植松清治会長／27人）は平成15年から、約600平方メートルの休耕地を利用して、ケナフを栽培している。

ケナフは一年草だが成長が非常に早く、丈が4メートルにもなる。二酸化炭素を多く吸収し、また二酸化窒素や、根からは窒素、リン、カドミウムなども吸収するため、環境植物と呼ばれる。茎の皮は長くて丈夫で、ヒモや糸として織物に利用出来、茎の中の木質部と一緒にすると良質なパルプを取ることが出来るので、紙の非木材資源になる。更に燃やして炭として、また葉や花は草木染めの原料にもなる優れものである。

当クラブでは毎年4月から畑の整備を行い、6月初旬に種蒔き、その後数回にわたりメンバー総出で除草等の作業をする。いちばんの心配と言えば、背丈が高いので倒れないように補強すること。12月初旬には茎の直径が5センチぐらいになって、いよいよ刈り取りだ。そのパルプを原料として、クラブ関係の名刺、封筒等の製品を作成している。

近年の環境に対する意識の向上に伴い、地域の皆様が当アクティビティについて理解と、関心を寄せて頂けるようになってきたのはうれしいことである。

（幹事／田村英雄）

鳥取県・倉吉打吹ライオンズクラブ

薬太郎君と薬物乱用防止教室

倉吉打吹ライオンズクラブ（福谷直美会長／49人）は2月23日、琴浦町立古布庄小学校5、6年生を対象に、保健衛生の時間に薬物乱用防止出前教室を開催した。当クラブとしては17回目、同校では2回目の開催である。

今回は初めての試みとして、倉吉交通安全協会から、腹話術人形「薬太郎君」をお借りしての実施となった。

薬太郎君は普段は交通安全の補助指導員であるが、この日は特別に薬物乱用防止を指導。多少のとまどいはあったようだが、交通安全も薬物乱用のどちらも、ルール違反をすれば大ケガや死につながってしまうのは同じ。ここに居るみんなが一度しかない命、人生を台無しにすることがないよう、薬物乱用は一度でも「ダメ。ゼッタイ。」と、ライオンズのおじさんと一緒に、力強く訴えた。

児童たちは「今日の勉強で薬物乱用の恐ろしさがよく分かりました」と言ってくれた。甘い誘いにはゼッタイに気をつけよう、と心に誓い、最後はみんなで一斉に、「薬物乱用は『ダメ。ゼッタイ。』」と大きな声で唱和して、出前教室を終了した。

（尾﨑明雄）

岐阜県・岐阜城ライオンズクラブ

盲導犬協会への継続支援事業

私たち岐阜城ライオンズクラブ（小池重善会長／61人）は社会奉仕委員会の継続事業として、盲導犬育成支援を目的としたゴルフコンペや募金活動等を行い、㈶中部盲導犬協会へ贈呈している。資金不足問題を抱える同協会の一助となるためだ。現在、全国には9万7千人の1級視覚障害者がいるのに対し、盲導犬の数は990頭。1頭当たりの育成費用は約500万円掛かるのに、協会の運営は善意の寄付金のみで賄われているのだ。

今年度も10月27日、第17回チャリティー・ゴルフを開催した。一般募集に合わせ、334‐B地区第1リジョン第3ゾーン内のブラザー・クラブの協力で200余人に参加頂き、盛大な会となった。また、地元・ぎふ信長まつりの歩行者天国では毎年、盲導犬をもっと知ってもらうための盲導犬ショーと盲導犬体験コーナーを設けている。ハーネス（胴輪）をつけて視聴覚障害者を誘導している盲導犬の仕事振りを、健常者にも体験してもらうのである。

更に今年度はクラブ会員に盲導犬チャリティー募金箱を2個ずつ配布し、事業所やお店、職場などに設置してもらった。

「一人で自由に外を歩けるようになって、社会復帰が出来ました」「もう盲導犬のいない生活は考えられません」。視覚障害者の方が初めて盲導犬を使い始めた時の言葉である。

こうした感動を一人でも多くの視覚障害者の方に感じて頂けるよう、継続して事業に取り組んでいきたい。

（社会奉仕委員長／梶川美千佳）

兵庫県・尼崎武庫ライオンズクラブ

小学校で雪遊び大会

「ワァーイ、キャー、すごぉい」
山のような雪を前に、子どもたちの声が弾けた。2月4日の立春の日。

手作りの段ボールのスキーや板のスノーボードを抱えた子どもたちは、先生の許しが出ると一斉に、校庭に作られた高さ約2メートルの雪山を登り始めた。転げ落ちる子、体中雪まみれの子、大きな雪だるまを作る子、雪合戦をする子……。大歓声が校庭に響き渡り、子どもたちの喜ぶ姿に目を細めるメンバーたち。

あまり雪が積もらない尼崎では、子どもたちは冬場でも、なかなか雪遊びをする機会がない。そこで尼崎武庫ライオンズクラブ（山中幸一会長／31人）は10年前、結成20周年記念事業として尼崎の子どもたちに雪のプレゼントをすることにした。以来毎年、市内の小学校に雪を贈り続けている。

この雪はクラブ・メンバーの出身地、周囲を中国山脈の山々に囲まれた、県北部の加美町（合併により現・多可町）の山奥から届けられたものだ。雪を山盛りに積んだ10トントラックが3台、夜の間走り続け早朝に尼崎に到着した。朝7時、雪を待ち受けるメンバー。雪山をならし、滑り台のスロープ作りに汗を流した。朝礼では全校生徒から「ありがとう」という大きな声のお礼の言葉をもらった。

30周年を迎える来期もこの事業は継続したい。夢中で遊ぶ子どもたちに手を振り、学校を後にした。

（青少年社会福祉委員長／奥村喬）

東京GAIAライオンズクラブ

高齢者福祉支援活動

東京GAIAライオンズクラブ（19人）は2月26日、石井征二330-A地区ガバナーが経営されている老人ホーム、シルバービレッジ日野を訪問し、「ひな祭りコンサート」を開催した。

我がクラブの多彩なメンバーたち、アメリカ人宣教師のライオンジェームス・カテス・ルードが主催するバンド「ハート・トゥ・ハート」、全国カラオケ大会出場者であるライオン石川晴恵、シャンソン歌手ライオン井出悠子他、多数が出演。入所者、スタッフの方たちと歌と音楽を楽しんだ。比較的お元気な方の多いこの施設では、懐かしい童謡や青春時代のメロディなどバンドへのリクエストもあった。ライオンズ一同も共に「うれしいひな祭り」を即興で歌った時には大変感激した。

コンサート後には入所者の方とメンバー一同が交流させて頂いた。94歳になられるご婦人は出演者たちにサインを求められ、「お部屋に飾って今日のことを思い出すのよ」と話された。「人と会話出来ることが何よりうれしい」とおっしゃる方、「歌が心に染みた」と涙ぐんで握手してくださる方、「次回はいつですか」とライオンルードに尋ねる方もいらした。戦争の貴重な体験談、古里の話などもいろいろ聞かせて頂いた。

ひな祭りの昼食のメニューは、お刺身懐石とちらし寿司のお弁当。メンバーも入居者の皆様と同じメニューを、おいしくごちそうになった。クラブからはお土産にひなあられをプレゼントした。

（会長／柚木次郎）

大分県・鶴崎臨海ライオンズクラブ

交通安全優良団体表彰を授与

1月16日、東京・日比谷公会堂において「第49回交通安全国民運動中央大会」が開催され、鶴崎臨海ライオンズクラブ（36人）はここで、交通安全運動を積極的に推進し交通事故の防止に顕著な功績があった団体として、交通安全優良団体表彰を授与された。

式には会長の私がクラブ代表として出席した。大分県からは当クラブのみ、また全国44団体の中でもライオンズクラブの表彰は我々のみという栄誉である。同大会には、常陸宮、同妃両殿下がご臨席され、内閣総理大臣、衆参両院議長、国務大臣、国家公安委員会委員長が来賓あいさつをされ、関係者約1500人が出席する中で表彰式が行われた。

また、交通安全年間スローガン最優秀人選者、交通安全ファミリー作文優秀人選者の内閣総理大臣賞の授与もあった。

我々の「ウィ・サーブ」というライオンズのモットーに基づいた、地域社会のための地道な奉仕活動がこうした栄誉に浴したことは、先達や交通安全担当の事業委員ら会員たちの努力のたまものである。

今後も更に会員総意の熱意により、地域に喜ばれる人道的奉仕活動を続けていきたい。

（会長／宮永紀芳）

神奈川県・小田原白梅ライオンズクラブ

「白梅科学コンテスト2008」主催

小田原白梅ライオンズクラブ（60人）は今期結成30周年を迎え、記念事業として、青少年健全育成を目的とした四つの事業を計画した。その一つが「白梅科学コンテスト2008」で、中学生・高校生が科学への関心を高め、豊かな創造力と問題解決の力を育み、研究への意欲を醸成することが目的である。

2月7日に行った最終審査と発表会、表彰式では、青木秀雄小田原市教育長、諸岡紀夫小田原高等学校校長、桜井孝一330・B地区ガバナーにごあいさつ頂いた。

高校から9点、中学校19点の応募があった中で、1次審査の通過は10点だ。特別協力校2校の2作品も発表された。早稲田、横浜、東海の大学教授6人とクラブ・メンバー4人の計10人が審査に当たった。

最優秀賞は県立西湘高等学校・大津拓紘君の「カタツムリの天気予測の研究――気圧／湿度／明るさの位置の関係――」。賞品としてノートパソコンが贈られた。優秀賞は小田原市立千代中学校・丹野悠奈さんの「地層モデルを用いた地震と断層の形成に関する研究」、県立鎌倉高等学校・小倉慧君の「ロボットによる画像認識技術」、小田原高等学校・伊東雅史君らの「竹ひごの共振」の3作品。

発表会終了後には発表者同士の意見交換や教授への質問等、和やかな懇親会が行われた。審査委員長の橋詰匠教授からは「いろいろな発想、着眼が面白く、テーマをよく観察、研究が成され、参加生徒たちは科学を十分に楽しんでいる」と感想を述べられた。

将来は世界で活躍する科学者が誕生することを祈っている。

（会長／門松孝幸）

●獅子吼（ししく）
①仏が説法するのを、獅子が吼えて百獣を恐れさせる威力に例えていう語。
②大いに熱弁をふるうこと。（広辞苑）
●投稿要領→56ページ

ピラミッドの謎

橋本　収三（広島県・世羅甲山）

日本からエジプトへは空路14時間ですが、壮大なピラミッドを見ると、旅の疲れなど忘れてしまいます。その圧倒的なスケールは身震いするばかりの迫力です。

首都カイロの西13キロ、ギザの丘に建つ三大ピラミッドのうち、最も大きいクフ王のピラミッドは高さ146メートル（現在は頂上部が崩壊して137メートル）、一辺233メートルの四角錐、2・5トンの石230万個を積み上げているそうです。鉄器はもちろん、滑車の発明される以前、コロ、テコ、天秤だけで、この石の山を20年余りで積み上げたと言いますが、とても人間業とは思えません。以前は建設に奴隷を使ったとされていましたが、現在では報酬をもらった一般労働者が働いたというのが定説のようです。

この大ピラミッドが建ったのは紀元前2500年、すなわち今から4500年前のことです。その頃の日本はまだ縄文時代ですが、エジプト人は既に数学、物理等を解す、極めて成熟した文明を持っていたと言われています。

王は生前、巨大な墓を作ることを命題としたようですが、人間の思考をはるかに超える大ピラミッド建設という王の難題に、当時の学者たちは、その持てる英知のすべてを結集させたことでしょう。建築方法も以前は傾斜路を使い、人力で石を引き上げたと言われていましたが、高さ100メートルを超えると傾斜路は1キロに及び、そこにはピラミッドの3倍の石が必要となるため、最近では傾斜路説に代わって、大型の天秤を使って石を吊り上げたのだという説も出ています。

クフ王のピラミッドの内部を見学することが出来ました。幅約90センチ、高さ約120センチの極めて狭い通路を、中心に向かって50メートルばかり進むと、突然天上まで8メートルもある「大回廊」へ出ます。更に40メートル程進むと広さ20畳敷きぐらいの空間に着きます。ここが「王の間」で、天井を含め全面見事に研磨した石を敷き詰めています。石と石の間にはカミソリの刃1枚入りません。

中央にひつぎを置く程度の石の囲いがあり、まさしく「これが王の墓だ」と思いきや、これは王のひつぎを置くには小さ過ぎて違うとのこと。ではこれは何？　そして「王の間」とは何？　不可解な通路と共に謎は深まるばかりです。

クフ王、息子のカフラー王、そして孫のメンカウラー王。この三大ピラミッドに共通した構図と内容、また王のミイラや副葬品がないことから、最近、ピラミッドは王の墓ではなく太陽神崇拝のシンボルタワーではないかという説が出てきたそうです。エジプト考古学の権威吉村作治博士も「この近くの地下に3人の王の墓が必ずあるはず」と言われています。近い将来、吉村博

士による大発見があるかもしれません。
王の墓といえば、エジプト南部、砂漠の大峡谷「王家の谷」が有名です。ツタンカーメン王以外、ここで発見された62基すべてが盗掘されていたらしいのです。
1922（大正11）年に発見されたツタンカーメンの墓は、王のミイラと共にその豪華な副葬品が当時のままだったため、20世紀最大の発見と言われています。発見された財宝は現在、カイロ博物館にすべて展示されています。その中のハイライトは何と言っても王のミイラを覆っていた「黄金のマスク」です。幅46㌢、高さ61㌢、重さ11㌔の純金製。3300年前のものとはとても思えません。それは一点の曇りもない金色の輝きです。現在、世界最高の「オタカラ」で、吉村作治鑑定士曰く、「時価300兆円！」。これはアメリカの国家予算にも匹敵する価格です。
話は大きいほど面白いのです……。

浴衣で文化交流、そして奉納の舞

志村　容一（東京町田クレイン）

雨期に入ろうとしているパプア・ニューギニアへ9人のグループで渡航した。そのうちの4人は、プロの舞踊家と日本舞踊の先生、という顔ぶれだった。
ポートモレスビーに到着後、国内線に乗り継ぎ、ニューギニア島中央部にある高原の町ゴロカへ。ゴロカは東ハイランド州の州都だが、到着ロビーは何やらザワついていた。フェンスの向こう側で、目に涙をいっぱいためて手を振っている人たちがいた。コゲ村のモエナ・ハイスクールの校長先生と、2年前に町田市で行われたマラソン大会（武相マラソン）に出場した1人スケネ君が出迎えに来てくれていた。
ゴロカからは陸路で4時間、ようやくコゲ村へ到着した。地元の人とは、もう顔なじみの雰囲気。
翌日、小学校の朝礼に参加。訳あって、我々はおそろいの浴衣を着ていたが、雨期間近ということで道が悪く、履物は靴やキャラバンシューズという奇妙な姿。
朝礼は校長先生のあいさつに始まり、文具などの授与式を行った。そして、本日のメーン・イベント、盆踊りの披露だ。
炭坑節の音楽に合わせて踊り始める。1回目は我々だけが踊ったようなもの。続く2回目、低学年の子どもたちが参加し始め、だんだんと高学年へ。そして、回を重ねる度に先生や父兄の参加も。何と、終盤には全員が踊り、輪も1重から2重3重4重と大きくなった。この日のコゲ村は、まさに炭坑節一色。音感、リズム感のすばらしさに、ビックリ！　コゲ村の皆さん、ご参加ありがとう。
さて、次は、現地の踊りの観賞である。場所を替え、海沿いの町マダンにあるハヤ村を訪ねた。ハイランド地方よりもやや緩やかなシンシンダンス。トカゲの皮を張った太鼓を叩き、中腰で踊る簡単そうな踊り。が、実際に参加してみると、非常にキツイ踊りだった。更に、帯に草の葉や花を挿してくれたので、踊り終わってみると、浴衣が大変なことに……。彼らが顔や体に塗っている草の実の色が、自分たちの顔や浴衣にベットリ……いい体験をした。
浴衣での文化交流の他に、今回はもう一つの目的があった。それは、多くの日本の将兵たちが、いまだに日本に帰れずこの地に眠り、今の日本の平和を見守っているウエワク慰霊碑での奉納舞の実演であった。マダンまでは何回か行っていたが、ウエワクは初めてである。

約1時間、赤道に近づく。予想通り雨期も手伝い、ものすごい暑さ。第2次世界大戦時、「人間魚雷の川端」と呼ばれた方のホテルにお世話になる。3度の飯より缶ピースが好物と聞いたので、200本×9人＝1800本のお土産に大感激。

イラスト／小川和政

奉納舞当日、やはりすごい暑さ。慰霊碑の床が、サンゴを骨材にしたコンクリートのためザラザラで踊れない。厚手のブルーシートを何とか入手し準備する。準備段階で、もう全員汗ビッショリ！　各自踊りに備えメイク。しかし、すぐにおばけ！　今度は大型扇風機を手配。自分の出番まで扇風機を強風に設定して正面でスタンバイ。若手舞踊家白鳥歌舞伎の白鳥祐司君、神道英二君、大変な思いで持ってきた日本髪のカツラ、そして内掛けの浴衣、日本舞踊の師範内海翁嘉こと山本先生、内海嘉陽こと佐藤先生、本当にご苦労様でした。

鑑賞している地元の人々も、27年ぶりの大きな企画と聞いて、かなりの人数が集まったが、さすがに日影での見物。高温多湿、熱風、太陽がかなり近くに感じられた場所での奉納の舞、もうどんな暑さにも負けない自信が付いた。

帰路、マダンやポートモレスビーが涼しく感じられた。

飛行機の窓から見るニューギニア。川端さんがおっしゃっていた、「ジャワは天国、ビルマは地獄、いまだ帰れぬニューギニア」、その言葉が頭をよぎった。

在籍44年を振り返って

木村　義次（徳島西）

1964（昭和39）年10月27日が、徳島西ライオンズクラブの結成日。以来、条件が整っていたものか、例会1054回のうち1回欠席となり、日本国内外でメーク・アッ

プもした結果、1053回純出席を迎えることが出来た。家族を始め、友人知人からの励ましのたまものと深謝しながら卒寿を迎えた。

クラブ・メンバーの祝福を背に、今後も出席率向上のため結成記念例会で1053円、11月の例会2回には1054円、1055円とドネーションを続けさせてもらっている。

1964年は、東京オリンピックで沸いた年。高度成長の大波を受けながら、日本各地からお招きを受け、経営講演に従事。講演回数国内外で1200余回を数え、今も現役でがんばれる根底には、ライオニズムが流れていることを強調したい。

現在、大きな希望と行動力を持ってクラブに入会したライオンが中途退会するのは、本当のライオニズムを知り得なかったり、先輩ライオンもこれを指導しないからだと喝破したい。私もその中の一人であるが……。

クラブ・メンバーの多数は企業主かそれに類した方が多い。企業の存続が出来ないようになったり、病気その他、止むを得ない理由もあろう。

ここで考えてみよう！

企業の経営は自分一人では出来ない。これだけ複雑、変化の中にある企業である。まず企業診断を受けて、収益性・安全性・発展性の豊かな経営へと導かねばならない。

倒産する企業は気の毒だ。

中小企業診断士として50年間お手伝いさせて頂いたが、いつも倒産企業に気をもんでいる。

次に病気にかかることについて。酒・タバコを控えることだろう。私が90歳を超えて健康でいられることは、いくら勧められても「これで終わり」と杯を伏せることをしてきたことも一因だと思う。タバコも若い時代から1本も吸っていない。

ご縁があって世界規模で動くライオンズクラブ会員である限り、いつまでも若獅子のごとく、ウォーと大きく吼(ほ)えながら、人生は一度ととらえて勇敢に事業を成功に導くと共に、社会奉仕にまい進しましょうヨ。お互いにがんばりましょう。

「やればやれる　やらなんだらできん　みんなでやろう」

川の流れのように

和田　耕司（福岡博愛）

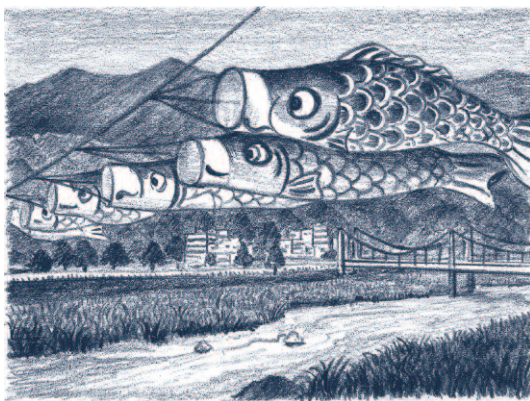
「知らず知らず歩いてきた　細く長いこの道。振り返れば遥か遠く故郷が見える」

私は別に、ひばりさんの歌を説明しているわけではない。昭和の激動の時代に生まれ育った私は、いわばひばりさんとは同世代。

父に死に別れた悲しい幼少の時代、ある時は童女のように、ある時はしたたかに庶民を演じ、庶民の心を歌った美空ひばりさん。「今日の我に明日は勝つ」と不幸にもめげず、明るく生きぬいたひばりさんが好きだった。生きる勇気を与えられた。

私は昭和10年、中国との戦争突入前夜の風雲時代に生まれた。そして昭和11年、二・二六事件、盧溝橋事件をきっかけに日中戦争に突入。暗い時代の幕が開いた。

終戦後、宮崎の田舎から裸一貫無一文で博多に出た。それからのことは文が長くなるので省略するが、時は流れて昭和47年、37歳の時、ライオン松尾哲也、ライオン藤田正紀の両医師をスポンサーに、福岡ライオンズクラブに入会した。当時の世相は、「沖縄の返還なくして戦後は終わらない」と訴え続けた佐藤栄作首相の下、沖縄が本土復帰を果たした

年であった。
せっかく名門クラブに入会したものの、いつ退会するか、いつもその機会をうかがう毎日であった。クラブ会員の平均年齢は59歳、そうそうたるネームバリューのある方ばかりで、若輩者で看板も財力もない私は、クラブになじめず困っていた。

そんな時、昭和生まれの会員が集まり、唱和会が設立された。私は3代目の唱和会会長に選任された。もう退会は許されない。

古い方、先輩に溶け込む努力が始まった。その時知り合ったライオンが、故土屋呂武元国際理事であり、故杉森司元地区ガバナー、故菊池、深見、清沢、故峰重、その他多くのすばらしい先輩たちで、皆さんから指導を受ける光栄に浴した。私は少しでもクラブの役に立てることはないか、いろいろ考えた。ある時、次々にアクティビティや行事があるが、あまり記録写真を撮っていないことに気がついた。

私は8ミリ映画制作やカメラ撮影が趣味だったので、このことをクラブ活動に生かしていきたい、と思うようになった。やがて私はYEをテーマにした映画『若い獅子たち』を自主制作。福岡市内のクラブから例会卓話に招かれ、重い映写機やスクリーンを持って飛び回るようになっていた。

こうした活動を通じて、多くの先輩に知己を得ることが出来た。中でも故貝島義之は、私たち福岡のライオンにとっては神様みたいな方で、それは雲の上の存在であった。が、カメラのおかげで近づくことが出来た。故村上薫元国際会長も、国際会長就任式の映画や写真を贈呈したら、丁重な色紙をご恵贈賜り、今も大切に自宅に飾っている。

そんなライオン一色に燃えていた私にも退会を決意したことが3回ある。

1回目はクラブ入会まもない頃。2回目は平成4年4月、突然失明し、網膜剥離で緊急入院した時。3回目は平成6年、福岡ノーマライゼーション ライオンズクラブ結成の提案書を親クラブに提出したものの否決され、篠原郁夫と二人で泣いて残念会をした時である。

が、3回の退会届けを胸に書きつつも、すべてが私につきがあった。今は亡き母のお守りがあった。周囲の方々からの応援があった。私は幸せ者である。

ひばりさんの唄のように、「川の流れのようにおだやかに、この身をまかせていたい」。

Close up

心も身体も健康な子どもを育てたい

この教室で教えているのは5歳から中学3年生までの10人。毎週水曜と金曜の夜と、日曜の昼に練習しています。子どもたちにレスリングを教え始めてもう30年、新潟栄和レスリングクラブを作ってから20年になります。「栄和」はベルリン・オリンピックで5位入賞し、日本にレスリングを広めた風間栄一先生のお名前から一字頂きました。大学卒業の時、「彼は必ずオリンピックに出る」と推薦してくださって、就職でもお世話になった恩師です。

レスリングを始めたのは高校1年の時です。私はもともと相撲が好きでね。中学時代には柔道をやっていたんですが、その頃に新潟で開かれた全国選抜レスリング大会を見たんです。相撲は手をついたら終わり、柔道は投げられたら終わりだけど、レスリングは手をついても、投げられても戦い続けるので、すごく面白いスポーツだと思った。それで、絶対にレスリング部のある高校に行こうと決めました。

東京オリンピックの代表に選ばれた時、大方の新聞は「風間はメダル間違いなし」と書きました。それだけ下馬評が高かったのに、3回戦で負けて期待を裏切ってしまった。それがあって、将来オリンピックでメダルを取る子を育てたいと、初めはそんな思いで指導者になりました。ただ、マラソンの高橋尚子を育てた小出監督も言っていますが、長年指導者をやっているうちに素質のある子に当たることもある。がむしゃらにがんばっても、そうした巡り合わせがなければうまくいかないところがあります。

社会が移り変わって、今はきちんと規律を守れる子どもは少なくなっています。考えられないような事件も多い。親を殺したりね。私は身体を健康にすることで、心も強く健康になると考えています。レスリングを通じて心身共に健全な子どもを育てたい、その中から強い子が出てくればうれしい、と考えるようになりました。

私はとことん面倒を見ますが、言うことを聞かない子には厳しく接します。それが嫌なら辞めてもらってもいいと、ご両親には話しています。いいことは誉める、悪いことをしたら叱る、それが大事なんです。

この教室はライオンズも応援してくれているんですよ。年末にはここで、子どもたちと一緒にもちつきをしてくれます。

新潟栄和レスリングクラブは市内中学校の空き教室の提供を受け、練習に利用している。体育館で基礎トレーニングを行った後、マットを敷いた教室で練習。締めくくりはそろって黙祷

■風間貞夫

かざま・さだお　1930（昭和15）年新潟市生まれ。新潟信濃川ライオンズクラブ。明治大学卒業後、63年に㈱新潟放送に入社。翌64年のオリンピック東京大会にレスリング（グレコローマンスタイル・ウェルター級）代表として出場。国体監督を務めるなど、2000年に退職するまで勤務のかたわら指導者として活躍。78年からはジュニア・レスリングクラブの指導にも携わり、88年に新潟栄和レスリングクラブを創設。ボランティアで指導に当たっている。

構成・写真／河村智子

ライオン誌日本語版出版物

ライオンズスクール・シリーズ

●初級編・**ライオンズクラブ入門**

入会したての新会員を対象に、これだけは知っておきたいライオンズクラブの基礎知識をまとめた。併せて「ライオンズ用語集」も収録。
A4判 64ページ 1部400円・送料実費

●中級編・**クラブ運営の基礎知識**

クラブ運営の基本を分かりやすく解説。知識を確認したり、セミナーや研修会などでグループ・ディスカッションに利用出来るワークシート付。
A4判 64ページ 1部400円・送料実費

●上級編・**リーダーシップを養う**

国際協会の総合的リーダシップ育成プログラムを基に編集。地区役員研修会などの副読本に、またクラブ会長や地区役員の指導力育成に最適。
A4判 64ページ 1部400円・送料実費

※ライオンズスクール・シリーズはいずれも50部以上ご注文の場合、送料無料（ただし、急ぎの場合は実費請求）。
●大口注文割引＝100〜499部350円／500部以上300円

※お申し込みは下記注文書をお使いの上、郵送またはファクスでお願いします。地区名・クラブ名・お名前・ご住所・お電話番号をお忘れなく。
※ライオン誌ウェブマガジンからオンラインでのご注文も承っています。下記のライオンズ文庫注文フォームからどうぞ。
https://www.thelion-mag.jp/modules/inquirysp/index.php?op=2
※請求書・振込用紙は、品物に同封します。（大口注文の場合は別便で送付）

〒104-0045　東京都中央区築地2-2-1　築地細田ビル7階　ライオン誌日本語版事務所（FAX：03-3546-2630）

キリトリ線

ライオン誌日本語版出版物　注文書

●ライオンズクラブ入門	部	●ウィ・サーブ	部
●クラブ運営の基礎知識	部	●ライオニズムよ永遠に	部
●リーダーシップを養う	部	●『ライオン』誌創刊号復刻版	部

地区名	クラブ名	お名前（クラブで注文の場合は不要）
33　-		
ご住所 〒　-		お電話番号

ふるさと探訪

栃木県宇都宮市

色褪せない存在感を示し続ける美しくも優しい石のぬくもり

■文／砂山幹博　写真／田中勝明

垣根掘りを繰り返して出来た巨大な地下採石場跡。現在は資料館として開放されている（大谷資料館TEL.028-652-1232）

足下掘れば、すべて大谷石

宇都宮の街中を散策してみると、所々で石造りの蔵を目にする。市内から、日光や鹿沼など郊外へと向かう街道沿いにもやはり石の蔵が点在する。

「どうしてこうも石蔵が多いのか」

以前から気になっていたが、今回の取材で謎が解けた。宇都宮市内で豊富に採掘される石で造られたものだという。

栃木県は全国屈指の凝灰岩の生産地で、中でも宇都宮市の大谷地区は石の産出量が最も多い場所。ここで産出される石は、地名から「大谷石」と呼ばれ、その名は栃木県における凝灰岩の代名詞にさえなっている。大谷を中心に東西12キロ、南北36キロという広い範囲にわたって地面の下に岩盤が存在し、そのすべてが大谷石。市の中心部であるJR宇都宮駅の真下にも大谷石の層が走っているという。

「2千万年前、この辺りはまだ海の底で、海底火山の爆発によって火山灰が堆積。それが隆起して出来たのが大谷石です」と説明してくれたのは、NPO法人大谷石研究会の高橋（ライオン）啓子（宇都宮マロニエ・ライオンズ（クラブ））。

高橋（ライオン）から手渡された青みがかった一片の石は、ザラザラとした粒子の粗い手触り。ところどころに茶色の異物が混じっている。青っぽいのは採掘し

35年前から掘り始めたという露天の採石場。大谷地区の地面の下は、すべて大谷石の岩盤に覆われている（撮影協力：高橋佑知商店）

たてで水分が多く含まれているためで、月日が経つと酸化作用で茶褐色を帯びてくる。茶色い異物は「ミソ」と呼ばれるもので、石の間に挟まった木片などの有機物が変色したものだ。手でほじくり出すことが出来るくらい柔らかいので、時が経つとミソがあった部分はただの穴になってしまう。一般にミソが多い石は良質ではないと言われるが、そのくらいの方がかえって強度があるとライオン高橋は話す。

柔らかく加工しやすいだけではなく、簡単に手に入ることもあって、大谷近隣では、塀や門柱、蔵に鳥居にお墓まで、さまざまな構造物の材料として大谷石が用いられてきた。

電動鋸で石に切れ目を入れた後、切れ目に楔を打ち込んで底をはがす

関東大震災で一躍有名に

この地で大谷石が使われた歴史は古い。切り出しと加工が容易であったこともあり、古くは古墳の石室や石棺の材料にも使われている。本格的に大谷石が建築資材として利用されるようになるのは江戸時代に入ってから。宇都宮城改築の際の土止めや堀割、橋などに使用された。

江戸中期には、大谷石の評判が江戸市中にまで届く。「火事と喧嘩は江戸の華」と名物に挙げられるほど火事の多かった当時の江戸では、耐火性に優れる大谷石が火災予防の建築資材として大いに重宝がられた。関東平野を北から南へ流れる鬼怒川を通じて、随分多くの大谷石が、江戸方面へと運搬されていたようだ。江戸湾に注ぐ隅田川沿いには、大谷石を扱う問屋が、7～8軒あったという記録も残っている。

大谷石の名が一躍有名になったのは、意外なことに1923年9月1日に帝都を襲った関東大震災であった。マグニチュード7・9の大震災によって一面焼け野原となった東京の街に、大谷石建築である帝国ホテル新館（ライト館）だけが無傷で残っていた。設計者が、アメリカが生んだ20世紀を代表する建築家、巨匠フランク・ロイド・ライトだったこともあり、その評価は世界的に高まっていった。

明治期に作られた石蔵が二つ並ぶ「屏風岩」は大谷地区のランドマーク

歴史を物語る採石場

高橋（ライオン）が採石場を案内してくれた。かつては石の層を垂直に掘り下げる平場掘りで石を切り出していたが、現在は、石の層を真横から水平に洞窟を作りながら掘り進んでいく垣根掘りが主流。垣根掘りは、明治末期から大正にかけて伊豆長岡の職人から伝えられた採掘法で、採取したい石の層だけを掘り進められるため採石コストを抑えることが出来た。また、石切の仕事は水が天敵。天候に左右されないという意味でも効果の高い採石法である。

　垣根掘りを繰り返すと、必然的に採石場は洞窟になるが、

案内されたのは、大谷で唯一という平場掘りを中心に石を切り出す露天の採石場であった。

　採石場ではちょうど石の切り出しが行われていた。地面に敷かれたレールの上を電動鋸がゆっくりと移動すると石に直線が刻み込まれる。刻み目に割矢と呼ばれる楔を打ち込むと底がはがれて、大地から大谷石が切り出される。「石目によってはうまくはがれない所もある。下手に割矢を打ち込むと変な割れ方をして、石が2本採れるべきところ1本しか採れないことも。機械で切っているとはいえ、この作業だけは職人の手が必要なんです」と石切をしていた職人が教えてくれた。

　切り出された原石1本の重さは約150キロ。こちらの採石場ではこれを1日に200本切り出す。かつてはツル

切り出された大谷石は、加工場で用途に合わせてさまざまな形に加工される

ハシなどを使う手掘りだったため、1日に平均して12本を切り出すのがやっとであった。手掘りから、現在の機械掘りへ移行するのは1960年頃。宇都宮の大谷石は、効率と合理化を求めた大量生産時代へと突入していく。

屋外から屋内へ

戦後、高度経済成長に伴って宅地や工業団地の造成が盛んになるにつれ、大谷石の需要は高まった。1973年にピークを迎えるが、その後、鉄筋コンクリート建築の普及や人件費の高騰など不利な状況が重なって、大谷石の生産は次第に減少の一途をたどっていった。大谷で石材を扱う会社は多い時で120社あったが、現在組合に加盟しているのはわずか10社。2004年のデータを見ると、出荷高がピーク時の13分の1にまで縮小している。

「最近は、門柱や石塀に大きくて重い大谷石を使うお宅は確かに激減しましたが、平成に入ってからでしょうか、大谷石の使われ方が一変します。軽くて小さくより身近なものが求められるようになりました」（ライオン高橋）

代表的なものが内装資材だ。石肌のやわらかな風合いが好まれて、店舗やホテルの内外装、商品陳列や壁面貼石など装飾性が求められるシーンで使われるケースが増えている。セレブが通うというニューヨークの有名なすしバーでも、壁面に大谷石が使われていると聞いた。

石質が柔らかいだけに、石に連想される冷たさを感じさせない。ちょうど木と石の中間のような性質を持っているため温かみがあり、親しみやすい。そんな大谷石を宇都宮のあるライオンは「近くにあると不思議とほっとする」と評したが、この感想にはちゃんと科学的な根拠がある。大谷石に約55%も含まれているゼオライトという成分は、癒やしの効果を発揮するマイナスイオンを大量に発生しているのだ。しかも、脱臭効果があり、湿気や温度を調整してくれるという。なるほど蔵には最適なわけである。

郷土自慢・クラブ自慢

宇都宮東ライオンズクラブの郷土自慢は、石蔵を改築した飲食店。今、宇都宮市内では大谷石の荒削りな雰囲気に魅了されたクリエーターらの手によって、かつて倉庫として使われていた石蔵が次々とモダンな飲食空間に生まれ変わっている。創作和食の店「石の蔵」（写真）もその一つ。食品原材料の業務用倉庫として50年前に建てられた石蔵を改築したこちらのレストラン、メニューのみならず、大谷石に囲まれた厳かなムードの中で食事を楽しめるとあって評判も上々である。（石の蔵 TEL：028・622・5488）

▼宇都宮東ライオンズクラブ（鈴木國勝会長／39人）＝1966年7月10日結成／スポンサー：宇都宮ライオンズクラブ

大谷地区にあるお宅では、耐火性のある大谷石で囲炉裏を作っていた

読者プレゼント

『おもしろえちご塾』を読者2人に

「THEME」(16ページ)に登場した大田朋子(新潟千歳ライオンズクラブ)から、著書『おもしろえちご塾』(㈱恒文社発行／B6判)が2人の読者にプレゼントされます。新潟の方言や伝承、食文化や生活の不思議を面白く、かつ徹底した調査に基づいて大まじめに紹介しています。ニイガタの知られざる正体が今明らかに！

大谷石細工を読者5人に

「ふるさと探訪」(51ページ)で紹介した大谷石のキャンドルライト(高さ15～20センチ程度)とカエルの置物をセットにして、5人の読者にプレゼント。自然石から作られているため、サイズやデザインは一つずつ多少異なります。

応募要領：はがきに「えちご塾」「大谷石」のいずれかご希望の品を明記し、住所、氏名、電話番号、クラブ名をご記入の上、ライオン誌プレゼント係あてにご応募ください。本誌ウェブマガジン(www.thelion-mag.jp/modules/inquirysp/index.php?op=0)からも応募出来ます。本誌へのご意見、ご感想もお書き添えください。締切は5月末日。応募多数の場合は抽選。当選のお知らせはプレゼントの発送をもって代えさせて頂きます。

2009年6月号予告

THEME 高齢社会

日本の総人口に占める65歳以上の割合は1994年に14%を超え、日本は「高齢社会」に突入した。高齢化率50%を超える高知県大豊町と、お年寄りが生き生きする街作りで活性化を図った松江市の商店街を訪ね現状をリポート。また、高齢社会のニーズに応えるライオンズクラブの活動事例を紹介する。

ライオン誌投稿要領

▼原稿は誌面の都合で編集したり、掲載出来ない場合があります。原則として原稿の返却は致しません。返却希望の場合はその旨を明記してください。▼電子メールでの写真投稿は長辺1,600ピクセル程度のJPEG最高画質で。▼住所、氏名、クラブ名を明記。

■クラブ・リポート34～42ページ：アクティビティ、例会など、クラブの活動を具体的に800字程度で。関連写真があれば添付。

■獅子吼43～47ページ：会員及びその家族によるエッセー、提言など。1,600字程度。職種、年齢を明記。

■エブリデー・ヒーロー前月号50ページ：ライオンズクラブにまつわる「ちょっといい話」をお寄せください。800～2,000字程度で。会員家族、事務局員の投稿も歓迎。

送付先：
〒104-0045　東京都中央区築地2-2-1　築地細田ビル7階　ライオン誌事務所
Fax：03-3546-2630　E-mail：edit@thelion.jp

築地通信

THEMEに掲載した「若手会員フォーラム」でのこと。1日目のディスカッション・リポートをプリントし、2日目朝に配布。受付の机上に5ページ分をページごとに並べ、参加者にセルフサービスで取ってもらった。すると来る人来る人、作業に戸惑いがない。クラブでの「働きぶり」がよく分かる一幕だった。紙を取る時の癖がそれぞれ違うのも面白かった。ちなみに私は左に先頭ページを置いて右へ移動、紙を下に重ねていくのがやりやすい。(やなせ)

ライオン誌事務所来訪者芳名録

日付	クラブ	氏名
3/4	北海道札幌時計台	野澤　強
3/4	北海道札幌時計台	杉沢　慎彦
3/7	東京三軒茶屋	藤村　貞夫
3/7	福井県敦賀みなと	清水　直喜
3/7	兵庫県神戸一の谷	辰巳　博昭
3/7	兵庫県神戸湊川	松本　晃一
3/7	兵庫県レインボー	団　英男
3/7	奈良県生駒	倉持　寛
3/10	東京新宿北	梅沢　忠男
3/10	千葉県四街道	楠岡　巌
3/10	愛媛県松山白鷺	原田　寛
3/11	東京GAIA	秋富　一美
3/11	東京GAIA	柚木　次郎
3/26	千葉	高橋　輝男

Official publication of Lions Clubs International

Published by authority of the Board of Directors in 21 languages - English, Spanish, Japanese, French, Swedish, Italian, German, Finnish, Korean, Portuguese, Dutch, Danish, Chinese, Norwegian, Icelandic, Turkish, Greek, Hindi, Polish, Indnesian and Thai.

Lions Clubs International Headquarters
300 W 22ND STREET OAK BROOK IL 60523-8842 USA
TEL.(630)571-5466 FAX.(630)571-8890
Web site: www.lionsclubs.org

ライオン誌日本語版事務所
〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階
TEL.(03)3542-9571(代)　FAX.(03)3546-2630
E-mail. edit@thelion.jp
Website:www.thelion-mag.jp

編集室

ライオンズの今昔

ライオン誌
日本語版委員
◉
瀧澤嘉門
（北海道・札幌ポプラ）

今から92年前の1917（大正6）年10月8日、第1回国際大会がテキサス州ダラスで開催され、インディアナ州のウィリアム・P・ウッズ博士が満場一致で初代会長に選ばれた。また「ライオンズ」の名称の変更を求める意見も出たが、投票の結果、24対6で変更しないことに決まった。当時の会員資格は白人に限定されていた。それから4年後に現在まで継承される紋章が完成。8年後の1925（大正14）年、アメリカ・オハイオ州で開催された第8回国際大会で三重苦のヘレン・ケラーが「ライオンズよ盲人の騎士たれ」と訴えて、それ以来ライオンズは白杖の普及、盲導犬の育成、アイバンク運動など視覚障害者支援に力を入れてきた。女性会員第1号はこのヘレン・ケラー女史と言われている。

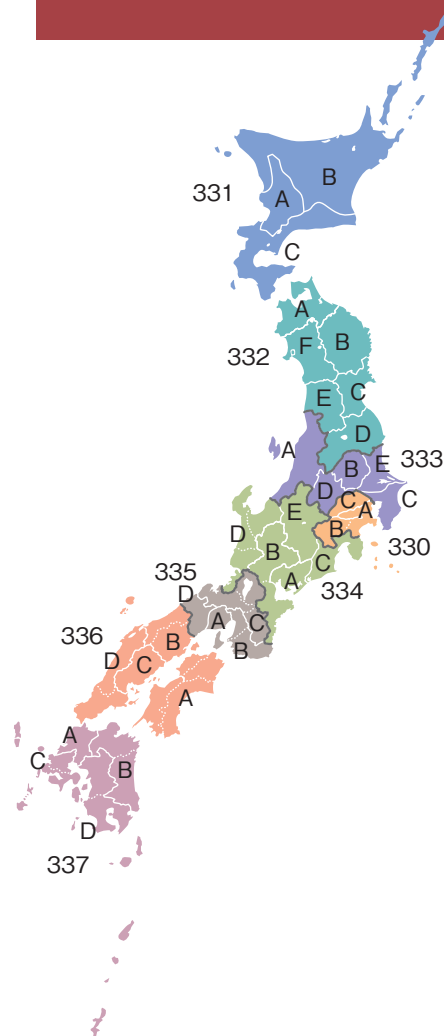
現在、ライオンズクラブは世界205カ国、130万人を擁するまでに成長し、会員の2割を女性会員が占めている。受け継がれてきた紋章は、協会のブランド・リニューアルに伴いL字の意匠をそのままに刷新された。昨年6月末には、3年間にわたった視力ファーストⅡキャンペーン（CSFⅡ）が成功裏に終了した。世界中のライオンズの努力によって、挑戦的目標2億ドル（約200億円）を突破。日本の献金実績は5690万ドル（56億円／28％）と世界第1位。全ヨーロッパが20％、アメリカが18％となっている。この資金によって、3300万人の視力が守られる。日本の献身的な協力は、これらの人々の視力回復や予防可能な失明の防止に大きく貢献することになる。

一人や二人で行う社会奉仕には経済的にも労力的にも限界があるが、志を同じくする人が集まれば大きな力となる。それがライオンズだと思う。これからも、過去を誇って未来を信じ、心と汗の「ウィ・サーブ」に尽くしていきたい。

日本のライオンズ

2009.2.28　ServannA報告による

地区	都道府県	■クラブ数	■会員数	期首からの入会	期首からの退会	期首からの増減
330-A	東京	202	5,419	578	308	270
330-B	神奈川・山梨・東京	191	5,308	377	296	81
330-C	埼玉	104	2,764	125	135	-10
330	計	497	13,491	1,080	739	341
331-A	北海道（道央）	77	2,761	190	168	22
331-B	北海道（道北・道東）	91	2,734	108	130	-22
331-C	北海道（道南）	60	1,932	112	130	-18
331	計	228	7,427	410	428	-18
332-A	青森	68	1,926	77	126	-49
332-B	岩手	55	2,048	410	89	321
332-C	宮城	82	1,541	87	103	-16
332-D	福島	77	2,093	128	134	-6
332-E	山形	58	1,913	84	101	-17
332-F	秋田	52	1,389	128	75	53
332	計	392	10,910	914	628	286
333-A	新潟	80	3,014	151	154	-3
333-B	栃木	57	1,436	71	63	8
333-C	千葉	135	3,589	201	215	-14
333-D	群馬	55	2,162	223	108	115
333-E	茨城	81	3,034	113	137	-24
333	計	408	13,235	759	677	82
334-A	愛知	120	5,798	282	250	32
334-B	岐阜・三重	87	3,965	232	168	64
334-C	静岡	84	3,376	160	152	8
334-D	富山・石川・福井	101	4,289	213	191	22
334-E	長野	53	2,248	112	60	52
334	計	445	19,676	999	821	178
335-A	兵庫（東）	108	2,889	153	160	-7
335-B	大阪・和歌山	203	6,672	401	414	-13
335-C	滋賀・京都・奈良	122	4,380	211	197	14
335-D	兵庫（西）	67	2,236	190	93	97
335	計	500	16,177	955	864	91
336-A	徳島・高知・香川・愛媛	156	6,142	322	359	-37
336-B	鳥取・岡山	99	3,502	180	218	-38
336-C	広島	104	3,907	223	223	0
336-D	島根・山口	105	3,492	199	204	-5
336	計	464	17,043	924	1,004	-80
337-A	福岡・長崎	118	4,799	309	247	62
337-B	大分・宮崎	81	2,581	166	170	-4
337-C	佐賀・長崎	84	3,097	207	226	-19
337-D	熊本・鹿児島・沖縄	144	4,340	293	324	-31
337	計	427	14,817	975	967	8
総計		3,361	112,776	7,016	6,128	888
世界のライオンズの		7.4%	8.5%			

日本ライオンズクラブ分布図

世界のライオンズ

2009.2.28　国際協会集計

ライオンズ国または領域	205
世界のクラブ数	45,404
世界の会員数	1,319,663
期首からの増減	14,042

国	クラブ数	会員数	期首からの増減
アメリカ	12,792	375,579	-6,096
インド	5,411	170,371	12,924
韓国	2,011	85,221	1,597

ライオン誌5月号
昭和33年12月19日付第三種郵便物認可　定価180円　送料実費76円
2009年（平成21年）4月20日発行　毎月1回20日発行　第51巻第11号

発行所　ライオンズクラブ国際協会ライオン誌日本語版事務所　〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階　Tel 03-3542-9571
印刷所　共同印刷株式会社

Courtesy of LCIF

世界中の子どもたちの笑顔が見たい！

300 W 22ND STREET, OAK BROOK, IL 60523-8842, USA
Phone: 630-571-5466　Fax: 630-571-5735
E-mail: lcif@lionsclubs.org
http://www.lionsclubs.org/JA/content/lions_lcif.shtml